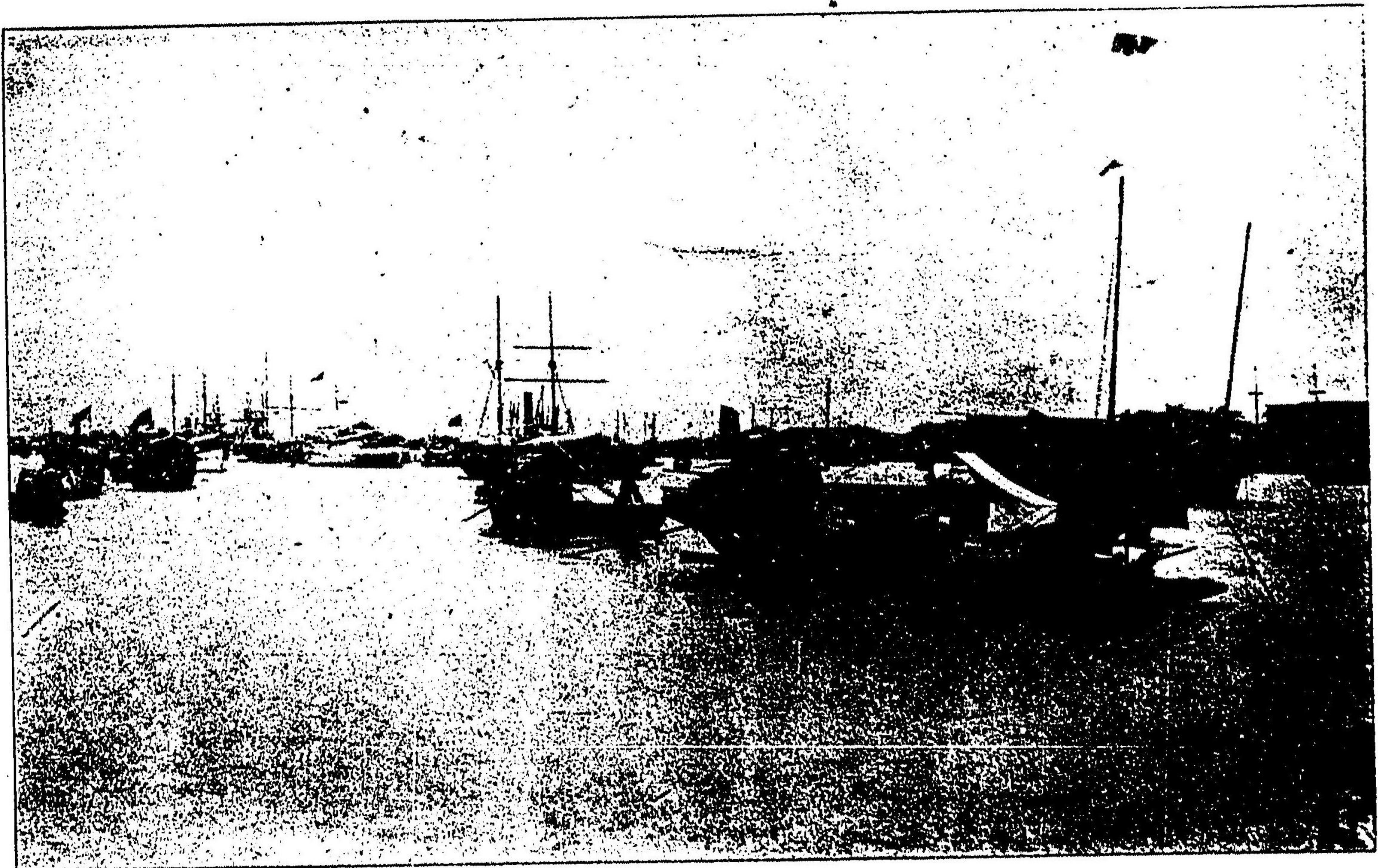


33
523

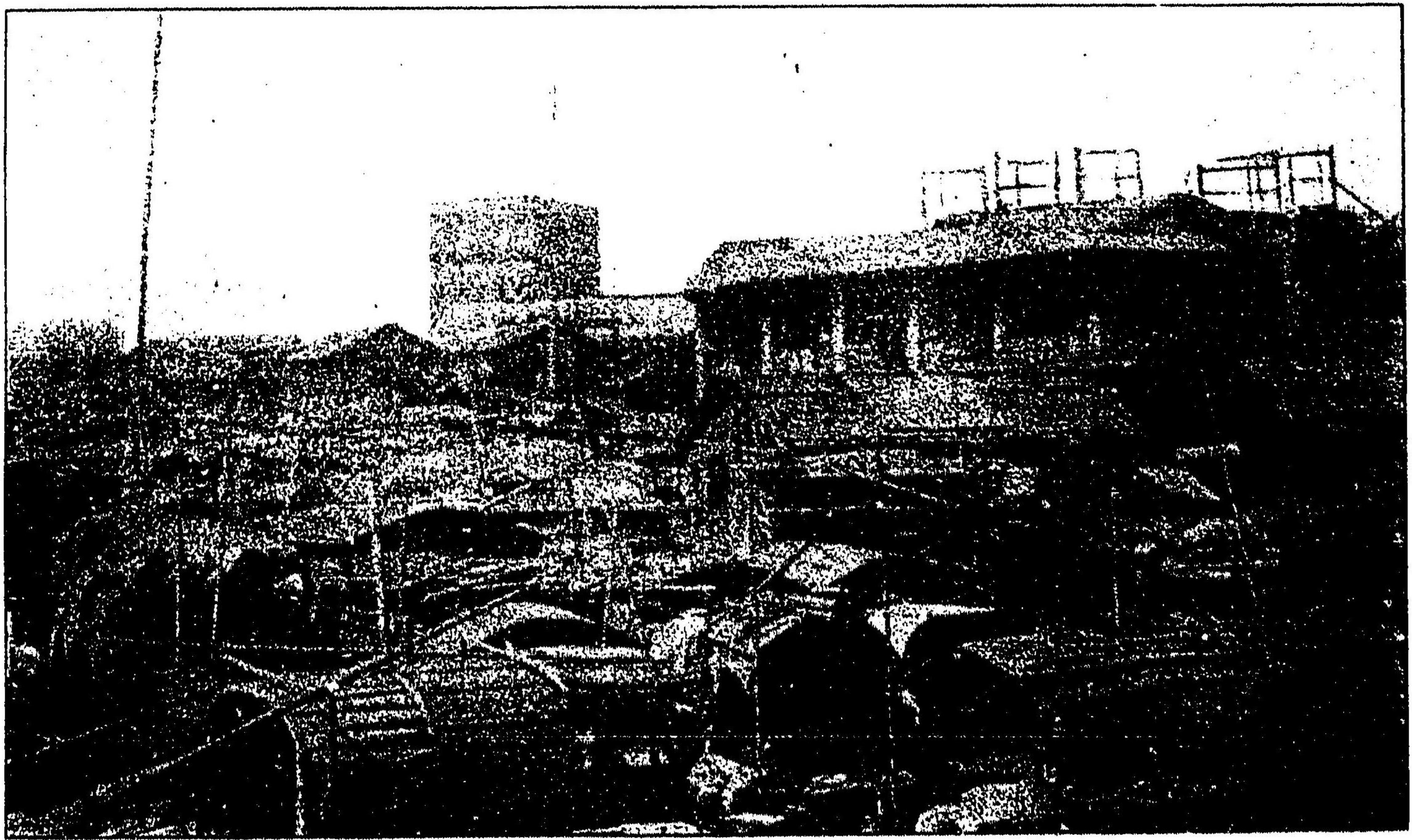
南清貿易調査復命書

(第一編花菱ニ關スル報告)

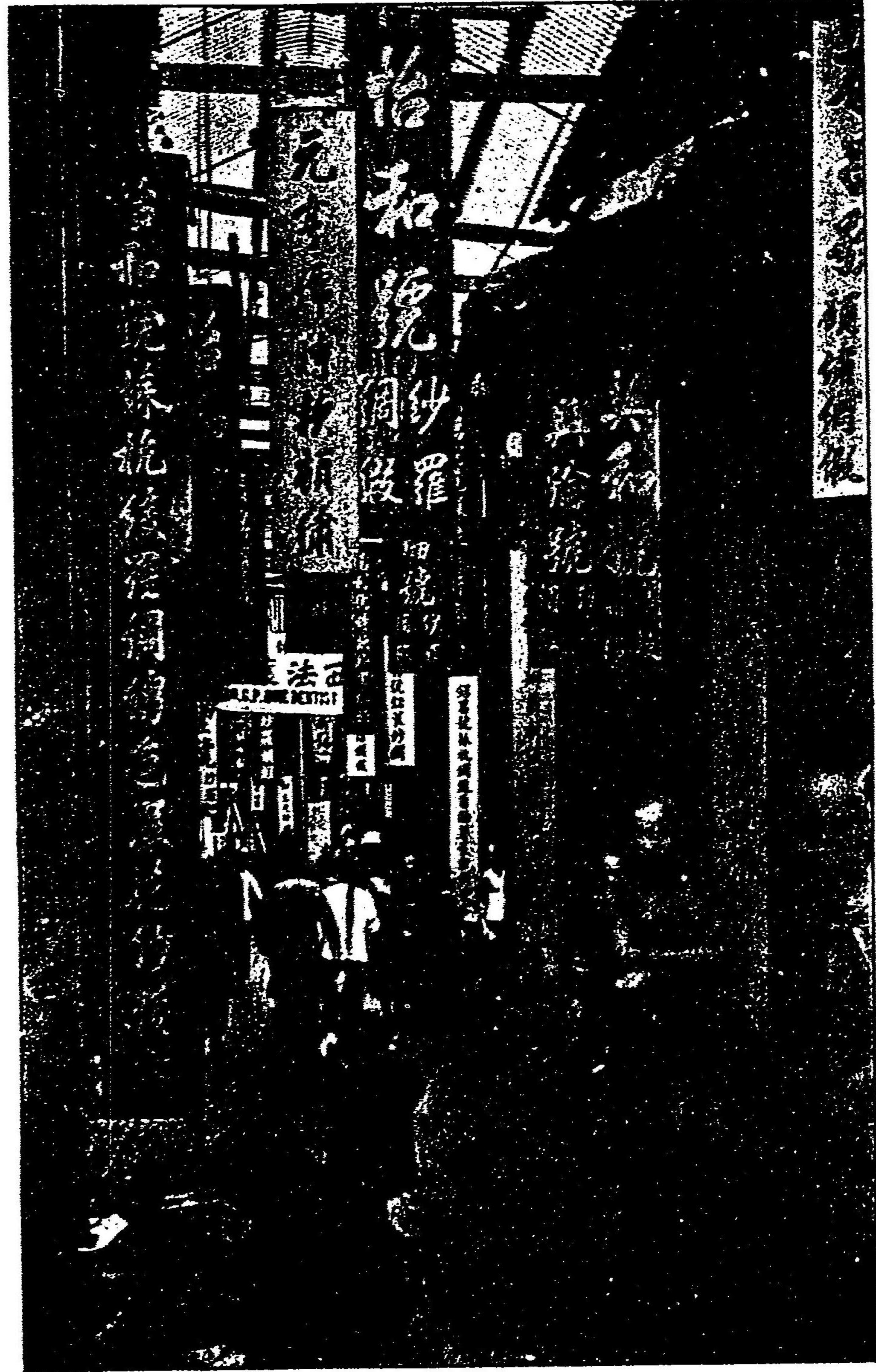
農商務省商工局



圖ノ泊碇船船ヲ於ニ江珠東廣



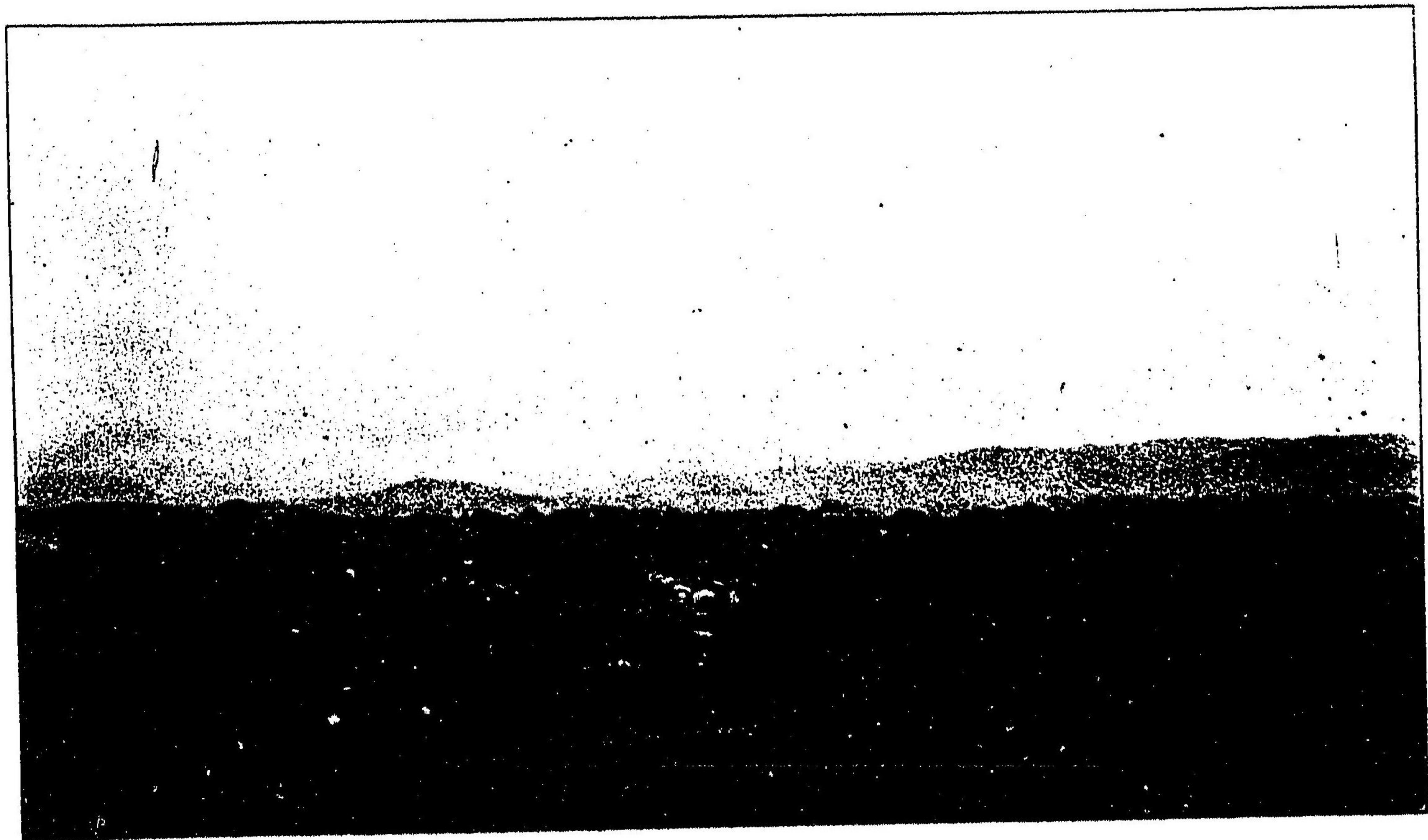
圖之湊輻舟脆テ於ニ江珠東廣



廣東市街圖



圖之面沙地留居東廣



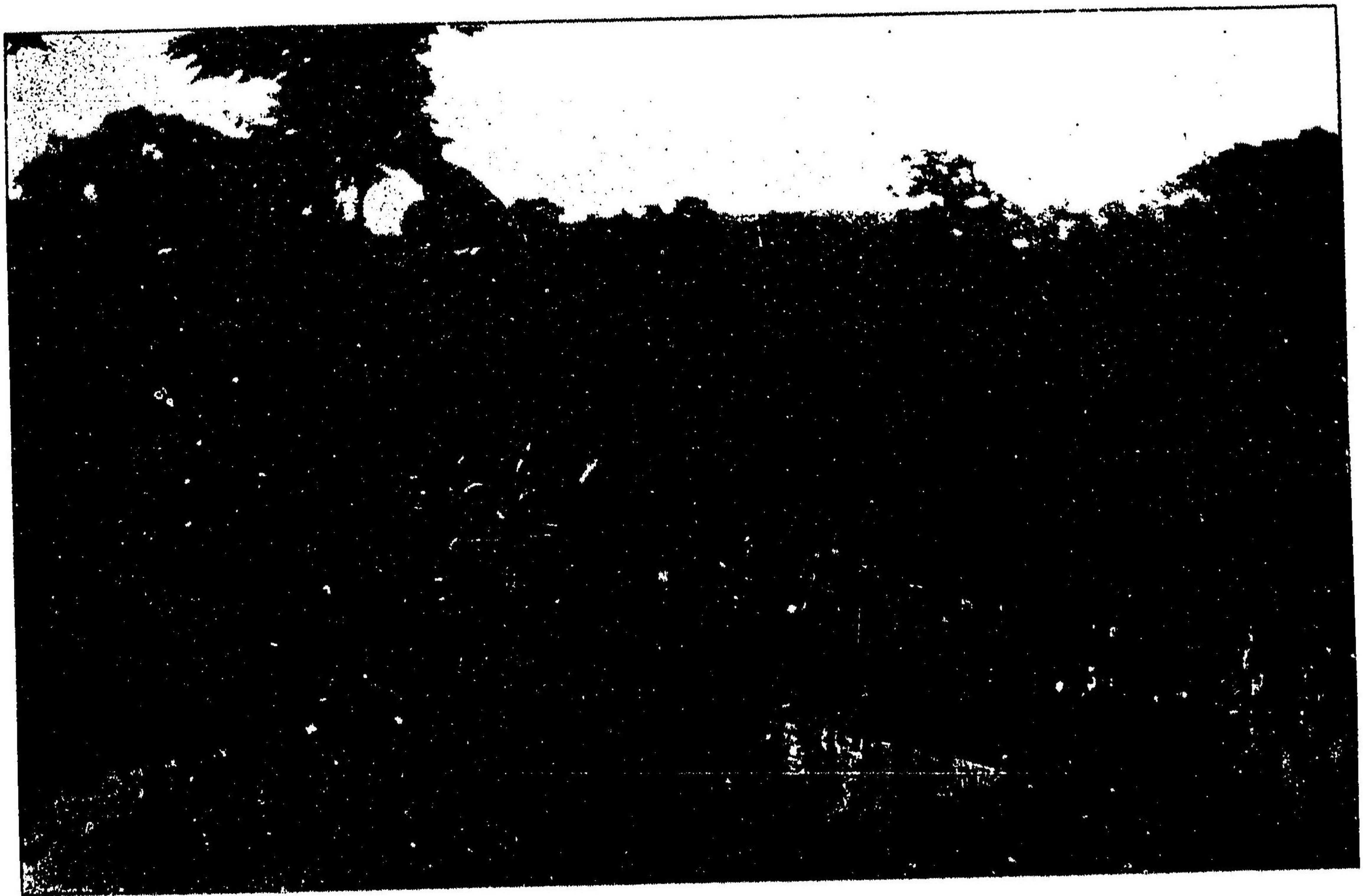
東莞村落之圖



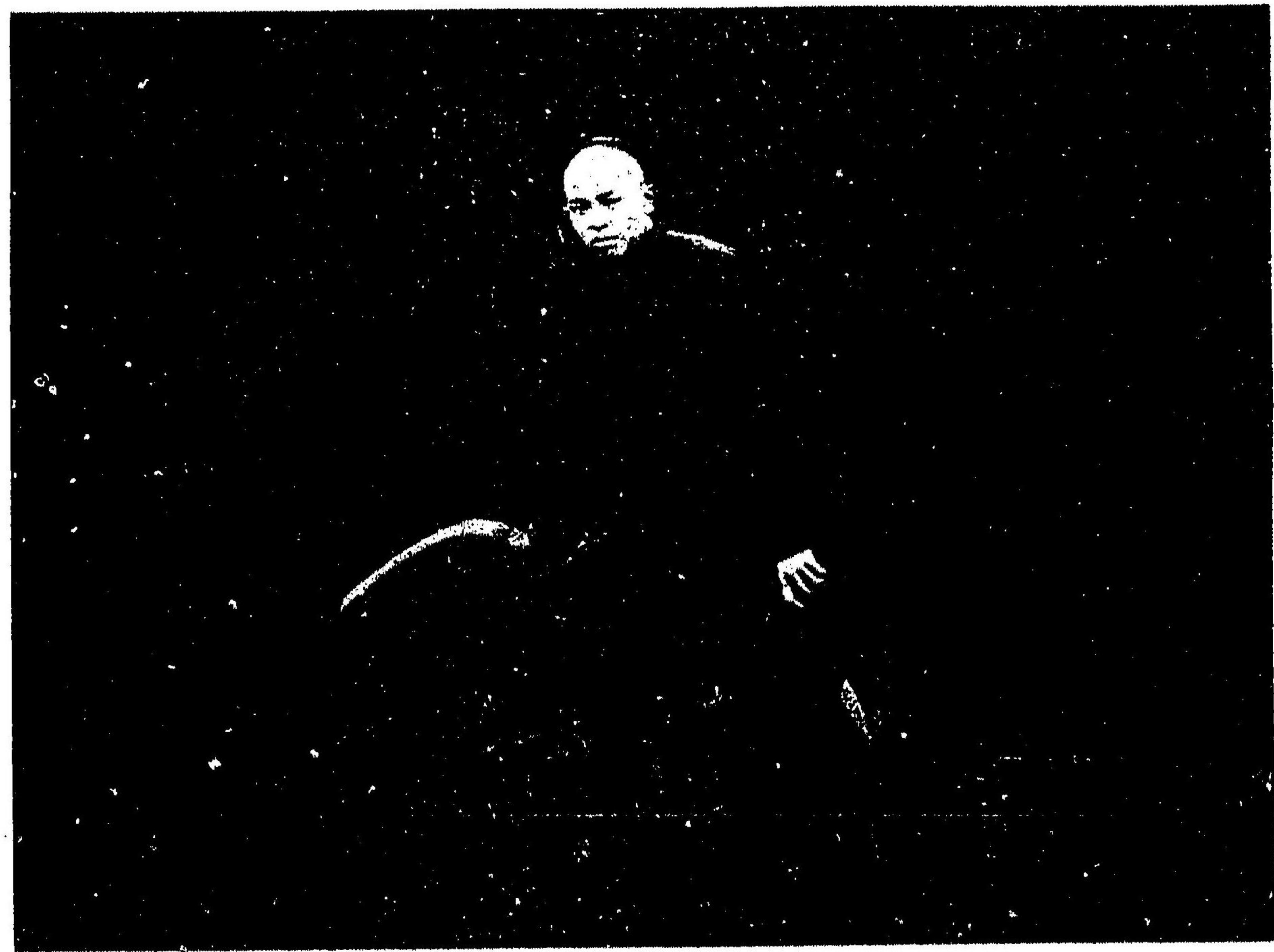
庫倉同共下地作耕草苗近附莞東



景一ノ地作耕草藪



圖之澆灌 = 草茵



圖之取刈草蒭



圖ノク劈チ草蘭



圖之民住織製蔴花



東莞花商商店之圖



圖之內庫倉店商廷花

南清貿易調査復命書

第壹編 花廷三關大ル報告



南清貿易上ニ於ケル其花廷ノ地位

第一節 種類

第二節 主要ノ産地

第三節 土質地形氣候

第四節 撰苗又ハ撰種

第五節 植附ノ季節及其成育

第六節 肥料耕作

一 二 三 五 六 七 七



第七節	蘭ノ疾病及害蟲	八
第八節	刈入乾燥攪別結束貯藏	九
第九節	品位類別ノ建値及市價	九
第十節	壹反歩ノ收支勘定	一〇
第十一節	農家ヨリ花苧製造者へ轉賣ノ順序	一一
第三章 原料蘭草ノ輸出		
第一節	沿革	一三
第二節	賣買又ハ出荷地	一三
第三節	荷造	一三
第四節	輸出税	一三
第五節	船便ト運賃	一四
第四章 花苧ノ製造		
第一節	產地各地産ノ品位	一四
第二節	製織ノ原料	一五
第三節	蘭草ノ攪別	一六

第四節	堅絲	一六
第五節	染色	一七
第六節	織機	二〇
第七節	織方模様	二〇
第八節	乾燥	二二
第九節	仕上下包装	二二
第十節	品種別ト價格	二三
第十一節	製造諸費ト收支勘定	二四
第十二節	繩織花苧	二四
第五章 花苧ノ取引		
第一節	中心市場	二五
第二節	注文引受ノ順序、約定期限	二六
第三節	製造時季	二七
第四節	製品検査	二七
第五節	荷造ト運賃	二七

第六節 買辨	二九
第七節 金錢支拂及買辨	二九
第八節 金融上金利	三〇
第九節 價格ノ變動	三一
第十節 倉敷料及保險料	三一
第十一節 輸出手續及注意	三一
第十二節 輸入國ニ於ケル清貨ノ換算率	三三
第六章 雜件	
第一節 清國ノ花苳商人	三三
第二節 税金及組合	三四
第三節 清國花苳ニ對スル米國ノ關稅	三四
第四節 粗製	三五
第五節 清國ノ丸苳苳	三五
第一項 丸苳ノ種類	
第二項 產地	

第三項 耕作、肥料	
第四項 收穫量、市價及一反歩ノ收益	
第五項 模樣染色及堅絲	
第六項 花苳ノ製造者織機及ヒ工賃	
第七項 販路	
第八項 寧波輸出見本ノ說明	
第七章 結論	

第一節 日清花苳ニ對シ米國關稅賦課振合ニ關スル疑議	四二
第二節 清國花苳ノ將來	四七
第三節 我當業者ノ活動策	四九

南清貿易調査復命書

農商務省商品陳列館技師 犬丸鐵太郎

第一章 編花廷ニ關スル報告

第一節 總論

第一節 清國ノ輸出貿易上ニ於ケル其花廷ノ地位

清國ノ輸出貿易上重要ナル地位ヲ占ル開港場ハ北部ニ天津、牛莊及芝罘ノ三アリ中部ニ於テハ上海及漢口、南部ニ汕頭、廈門、廣東及汕頭ノ二トス而シテ全體ニ亘リテ最重要ナルハ上海ヲ以テ第一トシ廣東之ニ次ク上海ノ輸出額ハ概ネ清國ノ全額ニ對シ殆ンド三分ノ一ヲ占メ廣東ハ凡ソ其五分ノ一二當ルノ物貨ヲ輸出ス而シテ廣東ノ輸出品中ニ於テ要貨トシテ重視サル、ハ生絲花廷製茶ノ三ニシテ廣東輸出金額ノ半ハ概ネ生絲ノ占ムル所ナルモ之ニ次テ輸出額ノ多キハ實ニ花廷ニシテ廣東輸出額ノ約一割ニ達セリ殊ニ花廷ハ生絲ニ比シテ單價低キカ故ニ從テ輸出金額ニ於テハ大ニ劣レリト雖其生産ニ關聯スル者即チ廣東省内地ニ於テ原料ノ耕作及ヒ其製織ニ從事スルノ農民等ヲ合算スルトキハ之ヲ生絲ノ從業者ニ比スルニ寧ロ多數ニ上レルカ如シ而シテ今清國ノ輸出年額凡ソ我參億萬

圓中ニ就テ毎年五百萬圓以上ヲ輸出スル品類ヲ指摘スレハ

生絲、製茶、棉花、絹布、毛皮、皮革、豆糟、大豆、花筵、豆油、胡麻、麥稈、真田

ノ類ニシテ多クハ農産物又ハ半製品タリ其ノ中獨リ花筵ハ海外需用地ニ於テ何等ノ加工ナク直ニ使
用ニ適スル製造品ニシテ恰モ清國ノ工業ヲ代表セルカ如キノ觀アリ即チ清國花筵ハ其貿易品中金額
ニ於テ又其物貨ノ品位ニ於テ將タ其恩惠ニ浴スル從業者ノ多數ナルニ於テ優ニ一頭地ヲ卓出シ以テ
清國ノ國際輸出貿易上最モ重要ナル地步ヲ占ムルモノナリ

第二節 商況

刻下ニ於ケル清國花筵ノ商況ハ沈衰セリ蓋シ是レ明治三十五年ノ頃ヨリ凡ソ三ヶ年ニ亘リテ行ハレ
タル夫ノ粗製花筵ノ不信用深ク米國消費者ノ腦裡ニ印影シテ未タ之ヲ恢復スルニ至ラス從テ海外需
用ノ注文加ハラス輸出ノ數量年々逐フテ減少セリ而シテ又近來ニ至リ銀貨ノ價格著シク騰貴シテ花
筵ノ原價上昂シ爲ニ甚タ米國輸出ニ便ナラサルモノアリ此等ノ原因相綜合シテ商況甚ダ不振ヲ極ム
ルモ製造者ノ多クハ自省スルコトヲ知ラサルノミナラス素ヨリ斯業ノ國際貿易上ニ於ケル大勢ニ通
スルモノナシ故ニ彼等ハ斯ク不振ノ悲境ニ接觸スルモ其由テ來ル所ヲ究ムルニ由ナク又之ヲ究メン
トスルニモ非ス茫然只其不況ヲ嘆スルト共ニ揣摩憶測ヲ逞フシ或ハ是レ日本戰ヲ露國ニ開キテ大ニ

勝チ大ニ打撃ヲ加ヘタルト共ニ日本ノ勢力膨大チ極メ延テ日本ノ花筵業者ハ此好機ヲ利用シテ大ニ
其商權ヲ擴張シ且ツ百方術策ヲ弄シテ清國花筵壓倒ノ途ヲ講シ終ニ斯ノ清國花筵ヲシテ悲境ニ沈淪
セシメタルナリト唱フル者アリ豈ニ其愚憐ムニ堪エスヤ然レトモ廣東方面ニ於ケル花筵商人ノ如キ
ハ具サニ其所以ヲ知悉シ今ニ於テ挽回ノ斷案定策ヲ樹立シ之ヲ遂行スルニ非レハ曩ニ衰運ニ傾キタ
ル夫ノ南清製茶ノ後ヲ襲フノ恐アリトシ苦心焦慮大ニ同情ス可キモノアリ

第三節 輸出統計

第一號表 清國花筵輸出數量表

年次	短尺物	四十碼物
明治二十五年	一七、二八三、〇一二	二二三、八九四
二十七年	一六、六五〇、二三八	二七三、八九〇
二十九年	一七、三六三、八〇三	五〇二、〇一七
三十一年	三九、四五七、七九九	五三六、八九三
三十三年	二二、一三八、四五六	五五一、一二五
三十五年	二四、〇〇二、一四〇	四八八、七四五

三十七年	一七、一三五、七一八	四七三、四四〇
三十八年	一五、九五六、二三八	四三八、〇〇九

第二號表 清國花苧輸出金額表

年次	短尺物	四十碼物	合計
明治二十五年	四八五、五七四	八〇六、四七九	一、二九二、〇五三
二十七年	四五五、五四六	九八七、二七四	一、四四二、八二〇
二十九年	七一九、八四九	一、八一四、〇三二	二、五三三、八八一
三十一年	一、五二五、四四二	二、一五七、六五二	三、六八三、〇九四
三十三年	九四八、九七四	二、三五五、九六三	三、三〇四、九三七
三十五年	一、一六〇、三九六	二、八〇八、八二八	三、九六九、二二四
三十七年	一、一三六、四四〇	三、三八九、六四二	四、五二六、〇八二
三十八年	九二九、八〇九	三、一二九、三三〇	四、〇五九、一三九
明治二十五年	六七九、八〇三	一、一二九、〇七〇	一、八〇八、八七三

第三號表 第貳號表ヲ日本貨幣ニ換算シタルモノ
一海關兩ヲ以テ我壹圓四拾錢ニ換算ス

前表ニ據テ見レハ清國花苧ノ輸出數量ハ漸次増加シテ明治三十一年ニ於テ最モ多量ヲ海外ニ輸出シタルモノ一轉遞次減少スルヲ示セリ然ルニ其金額ニ至テハ却テ増加シタルモノアリ是レ消費國ニ於テ其粗品ヲ避ケ品質ノ良好ナルモノヲ撰擇需用スルニ至リタルト一ハ銀貨騰貴ノ爲ニ價格昇騰シ因テ其輸出ノ數量減スルモ却テ金額ニ於テ増加ヲ現ハスニ至リタルナリ然レトモ明治三十五年後ニ於ケル粗製品ノ濫出ハ歷然其反應ヲ示シ三十八年ニ於テハ數量價格共ニ減少ヲ告グルニ至レリ

第二章 原料繭草

第一節 繭草ノ種類

清國產輸出花莖ノ原料ハ日本ニ於テシチドウト稱シ七島蘭ト書スルモノト同種ニシテ即チ莎草科植物ニ屬シ學名 Cyperus Tagetiformis, Roxb. ト稱ス可キモノナリ其標本左ノ如シ

第一見本 稻田ニ産シタルモノ

第二見本 河床地ニ産シタルモノ

第三見本 開花シタルモノ

第二節 蘭草主要ノ産地

良品ヲ産スルハ連灘^{リシタシ}ニシテ品質劣レルモ多數ヲ産スルハ東莞^{トシタシ}トス又香山^{ヒョウシヤン}ノ地ニ多少産出ヲ見ルモ品位遙ニ劣レリ連灘ハ珠江ノ上流凡ソ二百哩ノ地ニ存在シ東莞ハ廣東ヲ東ニ距ル凡ソ二十五哩ノ地ニ在リ何レモ廣東省内地ノ一市街ニシテ共ニ舟楫ノ便アリ

第三節 土質地形氣候

蘭草ヲ栽培スルニハ河岸又ハ小高キ傾斜地ニシテ粘質壤土ノ地ヲトスルモノ多ク氣候ハ南濱ノ常トシテ甚タ暖熱ナリ見本第四ハ東莞ニ於ケル米作地第五ハ河床地ノ土壤ニシテ共ニ蘭草栽培地ヨリ收得シタルモノナリ

第四節 撰苗又ハ撰種

蘭草ノ植付ハ種子ヲ用ユルニ非ラスシテ苗ヲ植付クルナリ其撰苗法タルヤ我日本ニ於テスルカ如ク深ク注意ヲ拂フモノナシ只既ニ繁殖シタル蘭株ノ一部ヲ分チテ植付ルニ過キス

第五節 植付ノ季節及其成育

陰曆七月ノ頃泥濘ナル水田ニ凡ソ方一尺毎ニ四五本宛ノ蘭苗ヲ植ユニ二年若クハ三年目ニ至ラハ著シク繁殖シテ田面一體蘭草ヲ以テ蔽ヒ寸地ヲ餘サ、ルニ至ル而シテ八年又ハ九年ノ間絶テ移植スルコトナク成長スルニ從ヒテ刈リ取り次季ノ成長ヲ待チテ又收穫スルナリ前年陰曆九月ヨリ十月ノ頃ニ收穫シタル刈株ヨリ發生シタルモノヲ四、五月ノ頃ニ刈リ更ニ成育シタル後子之ヲ九、十月ニ採取ス即チ一ヶ年二回ノ收穫ニシテ成育期間凡ソ一百日ヲ要ス

參照 卷首ノ寫眞

第六節 肥料、耕作

肥料ハ豆粕ヲ主トシ人糞ヲモ併用ス普通刈入後ニ於テ一回施肥スルノミ而カモ河邊ノ田地ニシテ洪

水灌漑ノ虞アル地ニハ何等ノ肥料ヲ施サ、ルモノ多ク施肥ノ量ハ我一反歩ニ對シ豆粕百斤ヲ用キ一
斤ノ豆粕三仙乃至四仙ヲ値ヒス而シテ耕作ノ方法タルヤ殆ント自然ニ放委スルニ近ク時ニ或ハ雜草
ヲ除クコトアルモ寧ロ稀有ノ例タリ

參照 卷首ノ寫眞

第七節 菌ノ疾病及害虫

目前田面ニ於テ立枯病ノアルヲ見ルモ清人ハ少シモ之ニ介意セス否ナ之ヲ知ラサルカ如シ又常ニ蠟
害ヲ蒙ルコト多キモ人爲的ニ驅除或ハ豫防ノ方法ヲ講スル者ナク只小鳥ノ之ヲ食ムニ委スルノミ

第八節 刈入、乾燥、撰別、結束、貯藏

菌ノ發育シテ將ニ咲カントスルニ先チ田面ヲ乾燥シ晴天ノ日ヲ撰ミ鎌ヲ用キテ刈取り根元ヨリ二ツ
ニ劈キ日當リ良キ乾地ニ運ヒ第一日ハバラニ並ラヘ第二日ハ半ハ相重ネテ乾燥ス
乾燥シタル菌ハ細大ヲ分タス四尺三寸以上三尺八寸、三尺二寸、二尺六寸等ノ四種乃至五種位ニ分
類シ直徑一尺位ノ束トナシ三箇所ヲ結束シテ自家ニ運送シ濕氣ナキ所ニ貯藏ス

參考品 第六見本 鎌

第七見本 劈刀

第九節 品位類別ト建値及市價

菌草ノ品位類別ノ基礎ハ長サト色合ニ重キヲ措キ細太ノ如何硬軟ノ度合等ハ第二項ニ位ス而シテ百
斤ヲ以テ建値トシ其市價ハ勿論歳ノ豐凶及需用ノ程度等ニ因リテ變動ヲ免レスト雖其昂低ニシテ平
均市價ノ二割以上ヲ上下スルハ稀ナリ今其普通相場ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

長サ	百斤ニ對スル市價	摘要
四尺三寸以上	三元九十九仙乃至 二元五十仙	花莖及巾廣品用
三尺八寸以上	二元乃至三元	同上
三尺二寸以上	一元半乃至 二元	花莖用
二尺六寸以上	一元半以下	花莖其他多ク花莖 以外ノ地席ニ用ユ

(備考)

- 一、此市價ハ廣東ニ於ケルモノナリ
- 二、東莞ニテ取引スル一斤ハ凡ソ我百五十匁ニ當リ廣東ニ於ケル一斤ハ我百六十匁
ニ當ル
- 三、長サニ據リテ區分シタルモノヲ更ニ其色合ニ從ヒ上中下等ニ分ツ

參考品 第三十一、三十二、三十三、三十四、三十五見本

十

第十節 壹反歩ノ收支勘定

清國ニ於ケル度量衡ハ不規律亂雜ヲ極メ稱呼同シト雖地方ノ異ルニ從ヒ其量目ノ多寡ヲ異ニシ又面積ノ廣狹ニモ差違アルカ如シ而シテ廣東省ニ於ケル一畝ハ凡ソ日本ノ八畝内外ニ相當スルニ似タリ今蘭草生産ニ關スル收支勘定ヲ我一反ニ換算シテ計算スルニ

一金二十七元六十仙

我一反歩ニ對スル收穫

(備考)

一反歩ノ收穫凡ソ千二百斤乃至千三百斤ニシテ百斤ニ對スル價格ハ三元三十仙乃至二元五十仙トス即最低收穫高千二百斤ニ最低價格二元三十仙ヲ乘シテ二十七元六十仙ヲ得之ヲ以テ一反歩ノ收穫トス

一金十元五十仙

我一反歩ニ對スル支出

(備考)

蘭草栽培ノ地面ニ對スル一箇年ノ小作料ハ之ヲ稻田ニ比スレハ二元乃至三元安キヲ常トスルモ稻田ニ蘭草ヲ栽培シ從テ稻田ニ對スル小作料ヲ支拂フ者亦尠カラス稻田ノ小作料ハ六元乃至七元ヲ以テ常トスルカ故ニ之ヲ二分スルトキハ一收穫ニ對スル小作料ハ三元五十仙ニテ足レリ之ニ肥料代四元列入ニ際スル臨時雇人十二元及ヒ勞

キ賃一元ヲ加フルトキハ十元五十仙ヲ得即之ヲ以テ一反歩ニ對スル支出トス

差引殘金十七元十仙

利益金

即チ一收穫ニ對スル利益金ハ十七元十仙ニ當レリ然レトモ若シ自家ノ家族カ蘭草ノ耕作ニ從事スル日數ヲ積算シテ之ヲ賃銀ニ換算シ其金額ヲ控除スルトキハ一收穫ニ對スル純益金ナルモノハ僅カニ凡ソ五元乃至七元ニ過キサカカ如シ然レトモ農家ノ常トシテ自家ノ勞働日數等ハ之ヲ支出金ニ見積ラサルカ故ニ先ツ普通ニ蘭草耕作ニ據ツテ農家ノ利スル金額ハ一收穫ニ於テ凡ソ十五元乃至二十元ニシテ一年二回ノ收穫ナルヲ以テ即チ一箇年ニ利スル處少クモ三十元ヲ下ラサルモノトス而シテ之ヲ米作ノ利益ニ比較スルニ普通三倍少クモ二倍ノ利アリ

(備考)

清國ニ於ケル地租ハ乾隆時代ニ制定セラレタルモノト今尙ホ同シ其額凡ソ一反歩ニ對シ六十仙乃至一元以内ニ止マルカ如シ

清國ニ於ケル距離及面積ハ一尺ヲ以テ單位トシ一尺ハ我一尺一寸強ニ當レリ五尺ヲ一步ト稱シニ歩ヲ以テ一丈トシ百八十丈ヲ一里トス而シテ宅地山林原野田畝等ハ方六十丈ヲ以テ一畝ト稱ス

第十一節 農家ヨリ花莖製造家ヘ轉賣ノ順序

十一

廣東及連灘ノ花筵製造家ハ概ネ東莞産ノ蘭草ヲ買入レテ製造スルモ東莞ノ筵業者ハ自家生産ノ蘭草ヲ用キテ製織スルモノ頗ル多キヲ以テ蘭草ノ商品トシテ賣買セラル、數量ハ之ヲ生産額ニ比較スレハ甚タ少シ而シテ蘭草カ其耕作者ヨリ製筵家ノ庫中ニ入ルノ順序モ亦單純ナリ即チ夫ノ普ク清國ニ行ハル、市場ハ東莞ニ於テモ亦行ハレ大市ハ十日ニ一回小市ハ三日ニ一回開カル、慣習ナリ故ニ耕作者ハ此市場ニ於テ蘭草ノ時價ヲ探リ意ニ適スル時ハ賣約ヲ結ヒ又不満ナルトキハ貯藏シテ時機ヲ待ツ又蘭草ノ仲買ヲ專業トスル者アリ常ニ價格ノ變動ヲ農家ニ報導シ賣買成立スルトキハ一元ニシニ仙乃至三仙ノ口錢ヲ受ク又廣東連灘等ニ於ケル大製造家ハ蘭草收穫ノ季節ニ當リ特ニ人ヲ派シテ買入ニ從事セシムルコトアリ

第三章 原料蘭草ノ輸出

第一節 沿革

原料蘭草ヲ清國以外ノ地ニ輸出シタル類例甚タ尠シ近來三井物産會社廣東出張所ニ於テ少量ノ蘭草ヲ日本ニ輸出シ靜岡縣下ニ於ケル青筵製造原料トシテ試用セシメタルト又蠶棚製造用及燐寸軸木等ノ結束用トシテ一ヶ月多キハ五萬斤ヲ輸入スルコトアルモ花筵製造用トシテ本邦ニ輸入シタルコトナシ然レトモ近來我ノ勞銀ト物價ハ騰貴シ且ツ増稅ノ止ムナキ等アリ從テ我蘭草ノ生産費ハ益々増

進シ延テ其市價ノ高直ヲ醸シ爲ニ我花筵ノ製織上ニ不便ノ影響ヲ與フルコト頗ル大ナリ此ニ於テ清國産蘭草ヲ輸出シテ日本ニ輸入シ以テ我花筵製織ノ用ニ供スルノ得失如何ニ就テ考究ヲ加フルノ要アリ即チ特ニ本章ヲ設ケテ其輸出手續ニ就テ述ントス

第二節 賣買又ハ出荷地

清國産蘭草ヲ買入レントスルニハ東莞ニ於テスルカ若クハ廣東ニ於テスルカ便利トス東莞ハ蘭草ノ生産地ニシテ其ノ在荷多キヲ以テ一見東莞取引ヲ利ナリト考フ可キモ寧ロ廣東ニ於テ金品ノ受渡ヲ結了スルヲ以テ得策トス蓋シ東莞ニ於テ取引スルトキハ更ニ之ヲ不規律ナル脆舟ニ依リテ廣東ニ運送セサル可カラス亦外國取引ノ銀行ナキカ故ニ現金ヲ以テ購入セサル可カラス之ヲ海外輸出ニ慣レタル廣東ノ地ニ於テ取引スルニ比スレハ其難易同日ノ談ニ非サルナリ

第二節 荷造

荷造ハ凡ソ百斤毎ニアンヘラ蓆ヲ以テ之ヲ包裝スル丁恰モ花筵ノ荷造ニ於ケルカ如クスルヲ可トス

第四節 輸出稅

清國ハ尙ホ輸出税ヲ徵スルノ國ナリ其税率ヲ見ルニ蘭草ニ對シテ特ニ規定セルモノナシ即チ税關ニ就テ糺スニ從價ノ百分ノ五ヲ徵ス可ク決シテ其以上ヲ課税スルコトナシト云ヘリ蓋シ清國ノ輸出税率ハ若シ品目ノ明記ナキトキハ從價百分ノ五ヲ價スルノ規定ナレハナリ

(備考) 日本税關ニ於テハ從價一割五分ノ輸入税ヲ課スルカ如シ

第五節 船便ト運賃

廣東ニ於テ蘭草ヲ買入レタルトキハ汽船又ハ脆舟ニ搭載シテ香港ニ送致シ日本行汽船ニ直ニ轉載スルヲ普通トシ又良策トス廣東香港間ハ毎日二三回又香港日本間ノ船便モ頗ル頻繁ニシテ毫モ不足ヲ憂フルコトナシ而シテ香港日本間ノ運賃ハ壹噸凡ソ四元ニシテ廣東香港間汽船積ハ非常ノ高價即チ約參弗ヲ要ス然レトモ之ヲ脆舟積トスルトキハ凡ソ壹弗内外ニ過キス而シテ廣東日本間ノ運輸日數ハ中途寄港地ノ多少ニ由リテ相違ヲ生ス若シ香港神戸間ニ直航スルトキハ一週間以内ニシテ到着ス可ク又寄港地多キトキハ約半ヶ月ヲ要ス可シ

第四章 花苳ノ製造

第一節 產地、各地產ノ品位

廣東省ニ於ケル東莞、連灘、廣東ヲ以テ三大產地トナス而シテ輸出花苳ノ七割ハ東莞ニ於テ二割ハ連灘ニテ残り一割ハ廣東ニ於テ製織サル、ト見テ大差ナキカ如ク連灘及廣東ノ當業ハ工場組織ノモノ多ク東莞產花苳ハ殆ント家内工業制ノ下ニ製産セラル、ナリ工場中其大ナルモノハ百數十人ノ職工ヲ使役セルアリ而シテ確タル統計ノ據ル可キモノナク逸トシテ之ヲ知ルニ苦シムモ花苳ノ製織ニ用キラル、織機ノ數ハ凡ソ壹萬臺ナルカ如シ其中連灘花苳ハ精良品多ク東莞ニ於テハ概ネ並花苳ヲ製造シ廣東ニテハ精粗共ニ製織ス

製織ノ原料タル蘭草ハ殆ント東莞ノ產出ニシテ連灘廣東共ニ其供給ヲ東莞ニ仰クナリ連灘ニ於テ莞草ノ產出ナキニ非ルモ概ネ國內用ノ寢苳ヲ製織ス蓋シ連灘ニ於テ良品ノ製織セラル、所以ハ由來同地ノ住民ハ寢苳ノ外アンペラ蓆ノ製織ニ從事シ機織ノ業ニ關シテハ系統的ノ智識ト經驗ヲ有スルト一ハ比較的ニ勞銀ノ低廉ナルカ故ニ斯ク良品ノ製織ニ至テハ多ク原料ヲ珠江ノ上流貳百哩連灘ニ轉送シテ製織シ更ニ其河口廣東ニ下リテ初メテ海外ニ輸出セラル、ナリ

第二節 製織ノ原料

製織ノ原料ハ經ニ苧麻ヲ用キ緯ニ三角蘭即チ日本ニ於テ所謂七島蘭ヲ用キルナリ而シテ是等ノ原料ハ工場製造家ハ素ヨリ場主ニ於テ購入シ家内工業ニ於テハ自カラ購入又ハ栽培シテ其收穫ヲ以テ製

織スルモノアルモ多クハ仲次問屋ヨリ一切原料ノ仕送りヲ受ケテ製莖スルナリ

十六

第參節 藺草ノ撰別

花莖ノ製織ニ當リ藺草ヲ撰別スルニハ先ツ長短ヲ分ツ日本ニテ所謂スグリナルモノニ同シ斯ク長短ヲ分ツノ後チ大ナル庖丁ヲ用キテ根元チ一寸、三寸長キハ五寸切り捨テ亦尖端モ三寸五分長キハ一尺以上ヲ切り去リ徑二寸位ニ束ネ之ヲ拾束集メテ更ニ大束トス

之ニ從事スルハ男工ニシテ食物ハ雇主ニ於テ支給シ一ヶ月ノ給料七八元ナリ

切り去リタル根元及尖端ハ以テ繩ヲ絢ヒ短キハ燃料トス其價百斤ニ付貳拾仙内外ナルモ長サ貳尺

以上ノモノハ百斤五拾仙内外ヲ値スルコトアリ

長サノ取揃チ了リタル藺草ハ之ヲ女工ノ手ニ移シ色合及細太ノ撰別ヲ行ハシム此等女工ノ給料ハ僅ニ一日拾仙内外ニ過キス斯ク撰別シタル藺草ノ中色合劣レルモノハ之ヲ染藺トシ色合可ナルモノハ直ニ花莖ヲ製織ス織ルニ先チ水ニ潤スヲ以テ普通トス

第四節 豎絲

豎絲ハ苧麻ヲ用ユルコト我豐後産花莖ト同シ内地消費ノ莖類ニハ共豎莖ヲ見ルモ海外輸出ノ花莖ニハ之ヲ用キス而シテ整經ノ方法ハ地上ニ距離ヲ定メテ杭ヲ立テ之ニ充ツ一卷ニ用ユル豎絲ノ數品質ニ因リテ相違シ少キハ六十乃至六十九本多キハ百十六ニ達シ其數ノ多少ニ應シテ細太ノ別アリ普通品ナル八拾ポンド内外ノ品ニハ豎絲八十六本ヲ用ユ

豎絲ノ價ハ百束凡ソ七元内外ニシテ一束ノ重量概ネ壹ポンドナリ八十ポンド品ノ製織ニハ凡ソ十束ヲ使用ス

參考品 第八見本

第五節 染色

染色ニ用ユル器具及設備ハ本邦花莖ノ染色用具ト類チ同フス其染色釜及設備ノ如キハ全然同一物ナリ只異レルモノハ口徑二尺高サ二尺五寸位ノ瓶ヲ用ユルコト多キニアリ

清國花莖ノ染色ハシキニ堪ヘ且ツ其色澤ノ美ヲ稱セラル、コト既ニ歲アリ加之清人カ其染色法ヲ秘スルノ注意最モ周到ナルヲ以テ其間特殊ノ消息秘法ノ存在スヘキヲ想ハシメタルモ就テ之ヲ研鑽スルニ其染料ハ概ネアニリン色素ヲ用キ順序方法ノ如キモ亦嶄新或ハ秘法ナルモノ無キカ如シ思フニ其色合ノ耐久的ニシテ艶美ナルハ染色ニ時日ヲ吝マサルト一ハ藺草ノ二ツ劈キニシテ纖維ノ内外ヨ

十七

リ色素ヲ吸收シ得ルカ故ナル可シ今其染色方法ト標本ヲ舉クレハ

見本

第九 青竹色 参照染菌第二十見本

水ヲ瓶ニ盛り藺草ヲ二三日間之ニ浸シタル後之ヲ乾シ明礬ノ溶解液中ニ藺草ヲ投シ四日間放置シテ後チ乾燥シ綠粉四ニ芥黃一ノ割合ニテ染ム

第十 紅黃又金魚黃色 参照染菌第二十一見本

二三日乃至四日間藺草ヲ水中ニ潤シ乾燥シタル後紅黃ニテ染ム

第十一 鼻煙色 参照染菌第二十二見本

見本第九ノ如ク先ツ明礬ニテ下漬ヲ爲シ更ラニ紅黃ニテ染ム

第十二 棗色又ハ赫色 参照染菌第二十三見本

藺草ヲ三四日間水ニ潤シタル上之ヲ乾燥シ明礬一磅四分ノ一ト蘇木九磅半ヲ水中ニ混シテ四時間以上煮沸シ之ヲ瓶ニ移シタルモノ、中ニ投入シ三四日ノ後之ヲ取り出シテ乾燥シ更ニ之ヲ紅黃五芥黃一〇洋紅五〇ノ割ニテ染ム此染上ニ於テ蘇木ヲ加ヘサレハ色素ハ藺草ノ内部ニ透入セスト云フ

第十三 洋藍色 参照染菌第二十四見本

二三日間水ニ潤シタル藺草ヲ乾燥シ青連一六綠粉四〇ノ割ニテ煮沸シタル液中ニ投シテ染ム

第十四 綠色 参照染菌第二十五見本

綠粉五、芥黃二ノ割ニテ煮沸シ藺草ヲ二三日間水ニ潤シタル後チ乾燥シタルモノヲ投シテ染ム

ム

第十五 黃色 参照染菌第二十六見本

二三日間水ニ浸シタル藺草ヲ乾燥シ芥黃ノ煮沸セル液中ニ投シテ染ム

第十六 紺色

水ニ潤シタル藺草ヲ乾燥シ綠礬ヲ溶解シタル液中ニ投スルコト三四日ノ後チ之ヲ乾燥シ更ニ青連、綠粉、紅黃各等分ノ割ニテ染ム

第十七 紫色

凡テ第十六見本ノ染色ノ如シ只染料ハ青連ノミヲ用ユルノ差アリ

第十八 赤色 参照染菌第二十七見本

蘇木ノ液中ニ藺草ヲ投入スルコト一週間其長キハ三週間放置スルコトアリ然レトモ近時ハ多クアニン染料ヲ用ユト云フ

第十九 灰色 参照染菌第二十八見本

是レ第九見本ノ下漬ナル明礬染ニシテ媒染濟タルモノナリ

參考品 第二十九見本染色用瓶

(備考) 染料ハ概不獨乙産ニシテ Justus Lembke & Co. 即チ謙信洋行ノ輸入ニ係ルモノ多シ

第六節 織機

清國花筵ノ織機ハ頗ル幼稚ナル構造ナリ恰モ我日本ニ於テ行ハル、疊表製造ノ織機ニ彷彿タルモノナリ普通杉丸太又ハ其割物ヲ以テ造リ箴ハ雜木ト稱スル頗ル堅牢ニシテ且ツ重量ナル材木ヲ用キ圓形及細長方形ノ穴ヲ相隔テ、穿キ之ニ豎系ヲ通ス織機ノ大サハ幅六尺高サ亦六尺位ニシテ一箇ノ製造費普通三元ヲ要シ多クモ五元ヲ出テス又差シ竹ハ日本ニテ稱スル女竹ヲニツニ割リ尖端ヲ去ル寸餘ノ部分ニ嵌所ヲ造ル全長四尺乃至五尺ナリ又ダマスク織ノ織機アリ杉丸太ヲ以テ造リ凡ソ幅八寸長一丈高サ九尺ニ及ヘリ其製造費凡ソ十二元ナリ

參考品 第三十見本簇用材料

第七節 織方模様

普通ノ織機ハ織リ且ツ縁組ヲ爲スノ織工一人又其右側ニ座シテ蒲草ヲ差シ入ル、ノ織工一人ニテ運

轉スダマスク織ニハ豎系ヲ惹クノ職工一人之ニ加フ即チ三人ヲ要スルナリ蓋シ其織機甚タ重ク箴ノミヲ量ルモ尙ホ三貫目アリ故ニ幾ント男工之ニ當ルニ反シ普通ノ織機ハ概不婦女子ノ業ニシテ中ニハ十歳以内ノ女子差蒲ヲ爲シ其母ト共ニ製織ニ從フアリ

ダマスク織ノ模様ハ所謂手惹キノ方法ニヨリテ織出サレ普通花筵ノ縞模様ハ差蒲職工ノ意匠ニ出ツ即チ赤色ノ次ニ綠色ヲ織ルトカ又綠色ノ次ニ白色ヲ織ルトカノ順序及赤色染蒲幾本ヲ織リタル後ニ白色染幾本ヲ織ルトカノ加減ハ凡テ此職工ノ記憶ニ基クナリ而シテ左右兩端一本毎ニ縁組ヲ爲ス

第八節 乾燥

清國花筵ノ製造上其乾燥ニ鄭重ナルノ一事ハ留意ス可キ事項ノ一ナリ彼等ハ織上ヲ終ルト共ニ先ツ乾燥ニ着手ス其乾燥器ナルモノハ直徑二尺五寸高サ三尺位ノ鐵製釜ニ薪ヲ燃キ其上方ニ鳥居形ノ枠アリ其枠ノ上ニ花筵ヲ通過セシメテ乾燥ス

東莞産ノ蒲草ハ其灌溉水ニ海潮ノ通スルアリ爲ニ陰曆二三四月ノ頃ニ於ケル雨期ニ於テ徴ノ生スルコトアリ連灘産ニ至ツテハ絶テ其愛ナシ

第九節 仕上ト包装

仕上ノ第一着手ハ地合ヲ密ニセンカ爲兩手ヲ以テ筵ノ表裏兩面ヨリ相壓スルト共ニ緯ナル箇ヲ押シ下クルニアリ之ヲ *Palmed matting* ト稱シ之ヲ爲サ、ルモノヲ *Unpalmed Matting* ト稱ス *Palmed matting* ヲ爲スニハ四十碼ニ對シ豫メ二碼内外ヲ織リ足シ置クノ要アリ

各地合ノ緊密ヲ終リタルトキハ織創切レ蘭線組等ヲ修整シ然ル後ニ之ヲ卷キ上ケアンペラヲ以テ包裝ス

第十節 品種別ト價格

清國花筵ハ之ヲ織方又ハ豎糸數ニ據テ區別スルコトナク常ニ一卷ノ重量ヲ標準トシテ品種ヲ分ツ即左ノ如シ

第一	四十乃至四十五ポント	一碼ニ付時價	四仙四分ノ三
第二	五十乃至五十五ポント	同	八仙四分ノ三
第三	六十乃至六十五ポント	同	十仙四分ノ一
第四	七十乃至七十五ポント	同	十二仙二分ノ一
第五	七十乃至七十五ポント	同	十八仙二分ノ一
第六	八十乃至八十五ポント	同	二十仙二分ノ一

二十三仙二分ノ一

第七 九十乃至九十五ポント 同

ニシテ花筵價格ノ高低ヲ報スルニハ概ネ此品種別ニ對シテ其時價ヲ通知ス而シテ第一ヨリ第五ニ至ル品種即チ七十五ポント若クハ時宜ニヨリ第六品種即チ八十五ポント以下ノ品ハ概ネ東莞ノ産出ニ屬シ八十ポント若クハ九十ポント以上ノ花筵ハ殆ント連灘ニ於テ製産ス而シテ廣東ニ於テハ兩者孰レヲ問ハス製織ス

(備考) 廣東清國商人カ内地ノ製造者ニ對シ兩ヲ以テ支拂ヲ爲ス場合ニ於テハ一兩ニ對シ九十一分ヲ支拂フ慣習アリ

參考品

- 第三十六見本 内地用筵
- 第三十七、三十八、三十九、四十 見本 七十乃至八十ポント
- 第四十一見本 八十ポント品
- 第四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九 見本
- 八十乃至九十ポント品
- 第五十見本 九十五乃至百ポント品

第十一節 製造諸費ト收支勘定

製造諸費ト收支勘定ハ花筵ノ品質ヲ異ニスルニ從フテ相異リ一率ヲ以テ律シ難シト雖今茲ニ我白八十竪並花筵ニ相當スル八十六竪七十ポンド乃至八十ポンド品ニ就テ其收支ヲ計算スレハ

- 一、二元三十仙 原料蘭草凡ソ百斤
 - 一、七十仙 堅糸代
 - 一、六十五仙 染料及染色代
 - 一、一元七十仙 織賃及仕上共
- 四十碼ノ一卷ヲ織ルニ二人ニテ凡ソ三日間ヲ要スダマスク織ハ三人之ニ當ル
- 一、三十五仙 雜費

計 金五元七十仙也

此賣價金六元五十仙也

差引利益七十仙也

即チ一卷ニ對スル利益凡ソ七十仙ヲ以テ常態トス

第十二節 繩織花筵

清國ニ於テハ凡ソ十五年以前其製造ヲ開始シ今尙ホ盛シニ製織シダマスク模様ノモノ多シ其重量ハ一卷百二十五ポンド乃至百三十ポンドヨリ百六十ポンドニ及フモノアリ價格ハ八元五十仙内外ヨリ十四五元ナリ蘭草ヲ絢フニ一斤(百六十匁)ニ對シ手工ハ二仙半器械製ハ一仙半ノ編賃ヲ仕拂フ

參考品 第五十一見本

第五章 花筵ノ取引

第一節 中心市場

清國花筵ノ中心市場ハ廣東ニシテ亦出荷港ナリ即チ我花筵ニ對スル神戸港ト同地位ニアリ蓋シ廣東ハ清國ノ貿易上其歴史ニ於テ又其樞要ナル點ニ於テ上海ニ次クノ要港ナリ其開港ハ一千八百四十二年ニ於テ協定セラレタルモ愈其完全ニ開放セラレタルハ第二英清戰役即チ一千八百五十六年ニシテ凡ソ五十年前ナリ香港ヲ距リテ珠江ヲ遡ルコト九拾哩ノ地ニ位シ其廣袤東西四哩南北貳哩ニ過キス又氣候温和ナラサルモ人口二百萬ヲ超過シ清國中否ナ東洋ニ於テ家屋及住民ノ最モ稠密シタル都府ニシテ古ク二千餘年前秦ノ始皇國內ヲ一統シタル往時ニ於テ既ニ南方唯一ノ都市タリ近年珠江開放ノ協約成リ列國ノ船舶ハ三千一百萬ノ人口ヲ有セル廣東ト五百萬ノ人口アル廣西ノ兩省ヲ橫斷セル本流ヲ溯航シテ深ク數百哩ノ内地ニ其國旗ヲ翻スト共ニ三水、高明、思平、梧州等ノ既開港地ト相

俟テ遠ク南寧ニ通スルニ至リタルヲ以テ本流ノ關門ヲ扼セル廣東ハ益々樞要ノ地歩ヲ占メ加フルニ其住民ハ精悍ニシテ勤勉婦女子ト雖尙ホ盛ニ力役ニ就クノ風習ナルカ故ニ商工ノ業益々殷盛ヲ致シ前途愈々有望ノ都市ナリ

參照 卷首ノ寫眞

第二節 注文引受ノ順序約定期限

居留外商ハ見本ヲ米國其他ノ輸入者ニ送り其注文ノ到着シタルトキハ曾テ其見本ヲ提供シタル廣東ノ清國商人ニ向テ見本ニ據テ品質ヲ定メ又廣東渡價格ト受渡時期ヲ定メ買辦ヲ通シテ注文ス而シテ清國商人ハ之ヲ自己ノ勢力範圍ニ於ケル東莞連灘等ノ製造家又ハ工場ニ對シテ其注文ヲ轉交シ製品出來シタルトキハ廣東ニ於テ金品ノ受渡ヲ結了ス尤モ廣東商人ノ多クハ其工場ヲ前記ノ生産地方ニ有スルカ又ハ農家ニ織機ヲ貸與スルヲ普通トス
海外需用地ヨリノ注文少キニ反シ製造品多クシテ停滯シタルトキ又ハ検査不合格品ニ對シテ大ニ割引スルノ時等ニ於テ所謂有品賣買ノ行ハル、コトナキニ非ルモ是レ甚タ稀有ノ例ニシテ寧ロ清國ニ於テハ有品賣買ナルモノ無キヲ以テ常態トス
約定期限ノ確保ニ至テハ甚タ正確ナリ蓋シ清商ハ狼リニ自己ノ取扱ヒ得ル卷數以上ヲ約束スル等ノ

無謀ナキニ因ルナリ

第三節 製造時季

最モ製造ノ繁忙ナルノ時季ハ蘭草ノ收穫後二三ヶ月間ト年末ニシテ春季ニ於テハ陰曆四、五月ニ始マリ六、七月ニ終ル而シテ秋季ハ九月ニ始リ十二月ニ終ル由來清國人ハ新年ヲ懼ヒ且ツ樂ムコト最モ深ク從テ金錢ヲ要スルコト甚タ切ナルカ故ニ臘月ニ於テハ凡テノ注文及金品ノ受授ヲ結了ス而シテ一月ハ殆ント之ヲ空費シ二月ニ入りテ稍々製織ニ從事スルモ寧ロ其業ヲ中止セサルニ過キス

第四節 製品検査

清國商人ト製造者ノ間ニ於ケル取引ニハ每卷検査ヲ行フモノトシ清國商人ト輸出商即居留外商トノ取引ニハ拔検査ヲ行フヲ以テ慣習トシ概ネ十卷ニ對シ一卷ヲ検査ス而シテ居留外商ハ此慣習ヲ改革ニ每卷検査ヲ行ハントスルコト既ニ幾年ナルモ未ダ其目的ヲ達スルニ至ラス

第五節 荷造ト運賃

荷造ハアンペラヲ用キテ包装スルコト恰モ日本花筵ノ如シ其費用ニ拾仙ヲ以テ普通トス花筵ノ廣東

ニ送荷サル、ニ先チ内地ニ於ケル運賃ハ

東莞廣東間脆舟積

壹卷四仙

連灘廣東間汽船積

百斤ニ對シ參仙

又廣東ヨリ海外ニ輸出サル、ニ當リテハ

廣東香港間汽船積

壹才噸ニ付貳弗

同 脆舟積

同上壹弗

ナ以テ普通トス壹才噸ニ對スル支那花筵ノ卷數ハ凡ソ八卷ニシテ重量ノ平均五百五拾ポンド内外ナリ

花筵ノ香港ニ到着スルトキハ十中八九直ニ米國行汽船ニ轉載スルモノトス其米國行運賃ハ

一貨車積 (One car Load) 即チ貳萬ポンド以上ノ貨物ニ對シテハ香港ヨリ紐育又ハ市俄古間ノ運賃

一ポンドニ付

米貨壹仙四分ノ一

(備考)

香港ヨリ米國各地ニ到ルノ運賃ト日本ノ港灣即チ神戸、橫濱等ヨリ米國各地ニ到ル

ノ運賃トハ同額ナリ是レ米國及東洋間ノ航運ニ從事セル各汽船會社カ日清兩國ノ貿

易チ存在セシメ且ツ自衛スル所以ニ屬ス假ニ若シ日清筵ノ米國行運賃ニ差違アリト

センカ清國花筵ノ米國輸入ハ廢絶スルニ至ルト共ニ汽船會社ハ搭載貨物ヲ失フ可シ

而シテ今米國行花筵ニ就テ日本及清國花筵ノ搭載額ヲ比較スルニ雙方相半スルカ或

ハ支那花筵ノ年額積載量多シ又夫ノ汽船ミネソタ號ノミニ日本花筵ノ年額輸出全量

ヲ搭載スルトセンカ同船ハ僅カニ二航海ヲ以テ全量ヲ運送シ終ル可シ故ニ各汽船會

社ハ斯ク日清花筵ノ米國行運賃ヲ同一ニシテ兩者ノ貿易ヲ成立セシメ延テ其ノ搭載

貨物ヲ得ントスルナリ

太平洋航行各汽船會社ノ連合成立セサル以前ハスエズ經由ノ荷物多カリシモ今ハ漸

次減少シ主トシテ太平洋積タリ

第六節 買辦

清國開港場ニ於ケル貿易上買辦ノ必要アルハ普ク人ノ知ル所ニシテ花筵貿易ニ於テモ亦買辦ヲ要スルナリ蓋シ清國人ノ資本財産及信用程度等ハ外國人ノ能ク窺ヒ知り得可キ處ニ非ス即清人ヲ買辦トシ之ニ取引全體ノ責任ヲ負ハシムルナク其報酬ハ俵給ヲ支拂フモノト俵給及手數料ヲ支拂フモノト又手數料ノミチ支拂フモノトアリ何レモ若干ノ保證金ヲ豫納セシメ多キハ數萬元ニ上レルアリ而シテ花筵取引ニ於ケル買辦ノ收得ハ普通賣買雙方ヨリ取引價額ノ百分ノ一宛チ徵收スルモノトス

第七節 金錢支拂及買辦

清國商人カ製造者ニ支拂フノ代金ハ製品ヲ受入ル、ト共ニ其代金全部ヲ支拂フモノト豫メ原料ヲ製造者ニ交付シ單ニ工費ヲ支拂フモノトアリ又工費等ヲ先貸スルモノ無キニ非ス而シテ是等ノ製品ヲ居留外商ニ轉交シ其檢査ノ結了シ即チ製品受授ヲ終リタルトキハ居留外商ハ其買辦ヲ通シテ一週間以內ニ代金ヲ支拂フモノトシ普通三四日ニシテ支拂フ而シテ此支拂ニ至ツテハ金額ノ百分ノ二ヲ差引ク慣習アリ但シ若シ此割引ヲ爲サ、ルコトヲ豫メ契約シ注文代價ヲ定メタルトキハ決シテ差引クコトナシト雖モ此點ニ關シ豫メ何等ノ交渉ナキトキハ其支拂ニ際シ斯ク百分ノ二ヲ差引クモノナリ

第八節 金融ト金利

廣東ニ於ケル花筵商人ノ金融ハ一ニ清國人ノ經營ニ屬セル銀行ニ頼ル但シ銀行ナルモノモ本邦ニ於ケルカ如ク組織的ノ銀行ニ非ラスシテ寧ロ兩替商ニ似タリ其數廣東市中ニ於テ八十有餘ニ及ヒ多クハ個人又ハ組合營業ニシテ其資本金ノ如キモ公知セラル、ニ非ス從ツテ之ヲ知ルコト難シト雖概ネ參萬兩以上十萬兩未滿ナリト云フ

金利ハ日歩一仙七八十文乃至三仙ノ間ヲ最低シ平均二仙三十文内外ナリ歲末及生絲ノ出盛ナル四、五、六月ノ頃ハ昂騰スルヲ常トシ正月二月ノ頃ハ低下ス此頃ニ於テハ預金ノ如キハ無利息ナリ

第九節 價格ノ變動

花筵價格ノ變動カ主トシテ原料菴草收穫ノ増減及良否ト海外注文ノ多少ニ基因スルコト我日本ニ於ケルモノニ同シ然レトモ日本ニ於ケルカ如ク急激突飛ノ變動アルコトナク時ニ價格ノ昂低アルモ平常時價ノ一割以上ヲ増減スルコト甚タ鮮シ

第十節 倉敷料及保險料

香港ニ於テ倉入スルノ場合殆ント稀ナリ若シ其場合アリトスルモ倉敷料ハ容積一噸ニ對シ一週間凡ソ十仙ナリ但シ内地航行ノ船舶ヨリ洋航船舶ニ轉載スルニ際シ積替接續費一噸ニ對シ凡ソ七十五仙ヲ要ス

廣東又ハ内地ヨリ香港ニ到ルノ荷物ニ對シテハ保險ヲ附スルノ例尠シ太平洋積ニ於テハ百圓ニ對シ六十錢ノ保險料ヲ普通トス

第十一節 輸出手續及注意

輸出ノ順序手續ハ世界普通ノ方法ニシテインボイスノ作成等別ニ差違アルナシ只輸出税及厘金税ヲ

賦課ナル、ハ清國ニ於テ特殊ニ見ル所トス花筵一卷ニ對スル輸出税ハ三十二仙厘金税八仙合計凡ソ四十仙ノ附加ヲ免ル可カラサルヲ以テ清國花筵ヲ輸出スルモノハ常ニ之ヲ忘ル可カラス
荷爲替ニ對スル銀行ノ手数料ハ之ヲ手数料トシテ銀行ハ徵收セス蓋シ清國、米國間ノ爲替ハ金銀本位ノ差違ニ因リ常次相變動スルヲ以テ此關係ヲ利用シテ其實手数料ヲ收入スルナリ

第十二節 輸入國ニ於ケル清貨ノ換算率

金銀貨幣爲替價格ノ變動圖ル可カラス從テ輸入國ニ於テ清國品ニ關稅ヲ課セントスルニ當リ其價格ヲ換算スルニ頗ル煩累ヲ見ル可シ故ニ關稅賦課ノ便宜上其換算率ヲ豫定スルノ必要アリ即チ花筵ノ大輸入國ナル米國ハ一ヶ年ヲ四期ニ分チ向フ一期間ニ於ケル換算率ヲ豫告セリ是レ又清國産花筵ノ貿易ニ從事スル者ノ須知事項ニ屬ス

第六章 雜件

第一節 清國ノ花筵商人

既記ノ如ク清國花筵ノ貿易ハ内ニ對シテハ廣東在住ノ少數清國商人ノ取扱フ所ニ屬シ其數僅々七人内外ニ過キズ又外ニ向テハ全然廣東居留外商ノ掌裡ニ存在ス而シテ清商ハ頑迷固陋改進スルコトヲ

知ラサル製造者ト開化セル在留外人トノ間ニ介立シテ製品及ヒ期限ノ履行ヲ調和シ其他取引上一切ノ圓滿ヲ圖レリ然レトモ是レ蓋シ至難ノ業ニシテ常ニ兩者ノ間ニ苦情百出スルノ事實アリテ將來久シク此狀態ヲ持續スルノ難キヲ言明スルト共ニ若シ日本ノ花筵業者ニ於テ少クトモ其三分ノ一以上ノ團結成リ清國營業商人ト相提携シ以テ米國直輸ノ業ニ從フノ企劃アラハ彼等ハ此動機ヲ利用シテ清國斯業ノ刷新ヲ遂行シ得ルノ利アルト共ニ日清兩花筵ノ爲メニ大ニ謀ル可キモノアルヲ説ケリ蓋シ若シ其數少ナシト雖此等實力アル清商ニシテ斷然意ヲ決シテ奮起スル所アラハ事實ニ於テ其國內ニ於ケル製造者ヲ統一左右シ以テ海外發展ノ端緒ヲ開キ得ヘキモ未タ其決意ノ機會ニ接セサルナリ

清國營業者中信用アリト稱セラル、モノ二三ヲ舉グレハ

廣東河南

源蓆店

同

興昌寶號

同

建興花蓆寶號

同

南棧蓆店

等ニシテ又輸出ニ從事セルモノ即チ居留外商ト稱スル者左ノ如シ

Carlowitz & Co.

獨商 日本ニ支店アリ

Siemssen Co. 獨商 日本ニ代理店アリ
 Arnhold Karberg Co. 獨商 同
 Shwan Tones & Co. 英米商 日本ニ支店アリ
 Reuter Brockelmann & Co. 獨商 日本ニ代理店アリ

第二節 税金及組合

普通物貨ト等シク厘金税内地税若クハ取立金ノ賦課ヲ受クル外特ニ花筵ノ製造營業ニ對スル課税ナルモノナク又組合ニ對スル經費ノ負擔ナシ蓋シ特ニ製造者間ニ法定又ハ任意ノ常設組合ナルモノナキニ由ルナリ若シ強テ營業上ニ關スル組合ナルモノヲ認メント欲セハ廣東ニ於ケル花筵商人ノ一團ナリト雖是レ又組合規則ノ協定セルモノナク尋テ役員等ノ設ケアルニ非ス只營業者カ時ニ應シテ相集リ相協議スル不文的一團ニ過キス然レトモ苟モ事ノ斯業ニ關シ利害ノ影響絶大ナルノ場合生スルトキハ製造者又ハ商人或ハ共ニ提携シ相團結シテ居留外商ニ當ルノ行動等ハ頗ル強固激烈ヲ極メ却テ居留外商ハ彼等ノ掌裡ニ翻弄セラル、コトアリ

第三節 清國花筵ニ對スル米國ノ關稅

清國花筵ニ對スル米國ノ關稅率ハ我日本花筵ニ課スルモノト同シク一嗎米貨拾仙未滿ノ品ハ一碼ニ對シ米貨參仙ノ從量税又拾仙以上ノ品ハ每一碼七仙ノ從量税、貳割五分ノ從價税ヲ課スルナリ然レトモ花筵代價ヨリ輸出税參拾貳仙、厘金税八仙船積料拾四仙合計五拾四仙及代價ニ對シ百分ノ二ノ歩引トヲ控除シ其殘額ヲ米貨ニ換算シ一碼ノ單價米貨拾仙未滿ナルトキハ第一稅率又拾仙以上ナルトキハ第二ノ稅率ヲ課ス

第四節 粗製

清國花筵ニ粗製造ノ弊ナシトハ常ニ内外商人ノ唱導スル處ニシテ既ニ吾人ノ久シク聞ケ所ナリ然ルニ彼ノ義和團事變ノ以後清國ノ人心變調ヲ呈シ舊慣ノ打破サル、モノ多キニ及ヒ玉石混淆這般ノ良習慣モ亦大ニ荒ミ明治三十五年ノ頃ヨリハ花筵ノ粗製續出シテ其結果ハ著シク米國ノ市場ニ影響スルニ至レリ茲ニ於テ彼等清人モ大ニ反省シ刻下ニ於ケル製品ハ甚タ精良ニシテ大ニ見ルニ足ル可キモノアルモ一タヒ失墜シタルノ聲價ハ之ヲ挽回スルニ難キモノアリ今茲ニ曩日米國紐育ノ花筵商人カ清國ノ營業者ニ送リタル決議文ヲ掲出ス可シ我營業者タル者常ニ大ニ猛省シテ可ナリ

清國花筵業者ニ告ク

清國及日本產花筵ノ輸入者ニシテ米國紐育ニ於ケルジョーウジ、ビー、スウエイン商會、ダブルユー、

エンド、セーロー商會、アーノールド、コンステール商會、サミユル、ハチト父子商會、ジヨ
セフ、ワイルド商會、ビー、チー、ジユチソン商會、フリッツ及ラルー商會等ノ店主又ハ代表者ハ一
千九百四年(明治三十七年)一月二十四日紐育市フヒフス、アベニユー、ホテルニ會合シ滿場一致ヲ以
テ左ノ事項ヲ決議シタリ

米國ニ於ケル花筵商業ハ避ク可カラサル事情ノ爲ニ非常ノ薄利否利益ナキ商業タルニ至レリ蓋シ
其所以ハ主トシテ當國ニ輸入セラレタル清國産花筵ノ粗製ナルニ基因スルカ故ニ茲ニ吾人ハ清國
ノ花筵業者ニ對シ本決議ヲ轉交セントス是レ實ニ清國當業ノ危機ニシテ若シ清國花筵業者カ勇斷
改良スル所ナク猶ホ其粗製品ノ輸出ヲ繼續スルアラハ其前途ノ命運ハ正ニ寒心スルニ堪ヘサルナ
リ如何トナレハ米國人ハ清國花筵ノ大消費者ニシテ吾人輸入業者又ハ小賣商若クハ清國ニ在留ス
ル輸出業者ノ如キハ純然タル仲次人タルニ過キス即清國花筵貿易ノ興廢ハ一ニ其消費者ナル米國
住民ノ嗜好之ニ向フト否ラサルトニアリ換言スレハ米國ノ住民ハ清國花筵ノ運命ヲ司ル最後ノ判
定者タルナリ而シテ吾人ハ正ニ絶叫ス可シ清國花筵ニシテ原料製織耳組重量及製品ノ均一ニ對
シ速ニ大改良ヲ行フニ非レハ必スヤ最後ノ判定者タル米國住民ノ信用ヲ失墜シ再ヒ之ヲ顧ル者ナ
キニ至ル可シ是レ既ニ先年日本花筵ノ粗製品米國ニ注入シタルニ當リ實現シタル所ニシテ吾人ハ
清國花筵ノ爲メニ甚タ憂懼已マサル所ナリ因テ吾人ハ清國ニ在留スル吾人ノ各代理者ニ向テ各別

ニ本件ヲ通牒シテ清國當業者ニ之ヲ申告スルト共ニ又吾人ノ決議ヲ具シテ之ヲ團體諸君ニ告ケ諸
君ハ速ニ之カ改善ノ途ヲ講セラレヨ

第五節 清國ノ丸蘭筵

第一項 丸蘭ノ種類

清國産丸蘭ハ日本ニ於テヤト稱シ又蘭、丸蘭、備後蘭ト呼フモノト同種ニシテ蘭草科ニ屬シ其學名
Juncus effusus, *J. Var. Decipiens*, Buchen. ナルモノナリ

参考品 第五十二見本

第二項 產地

書史ノ徵ス可キモノナク又深ク清國內地ヲ踏破スルニ至ラザリシヲ以テ果シテ其產地ハ如何ニ頒布
サル、カ之ヲ詳知スルニ由ナシト雖浙江福建及廣東ノ三省ニ於テ産出スルノ事實アリ而シテ其中心
出荷港ハ廣東汕頭及寧波ノ三地ニシテ肇慶、新會縣、外砂、溜浪、西鄉、南鄉等ノ地ニハ全村悉ク
丸蘭ノ耕作ニ從事シ村落相次テ十數里ニ亘レルアリ

第三項 耕作、肥料

蘭草耕作ノ土地ハ特ニ沼澤、濕潤ノ地ヲ用ユルニ非スシテ皆稻田ヲ是ニ充ツ收穫ノ季節ハ陰曆五月ナリ蘭草ヲ刈リ取りタル根株ハ其儘泥中ニ放置シ九月ニ至リ之ヲ分割シ凡ソ一尺平方ニ一株ノ割ニテ植附且ツ灌漑シ尋テ其長サ凡ソ二尺内外ニ成長スル迄時々人糞肥料ヲ施ス歲ヲ超テ翌年四月ニ至ラハ蘭草ハ遽カニ發育シ五月ニ於テハ十分成長シテ收穫シ得ルナリ
之ヲ本邦丸蘭ノ耕作ニ比スレハ其耕作ノ粗略ハ日ヲ同フシテ語ル可カラス又肥料ノ如キモ單ニ人糞ヲ施スニ過キサルヲ以テ肥料代ハ我一反歩ニ對シ僅ニ八十仙内外ニ過キス

第四項 收穫量ト市價及一反歩ノ收益

我一反歩ニ當ル地積ニ對スル收穫ハ凡ソ我九十貫内外ナリ而シテ一斤ノ市價五仙乃至十仙ノ間ヲ昂低ス之ヲ我蘭草ノ取引建値ナル三貫目一斤ニ換算スルトキハ我一斤ニ對シ最低七拾五錢ニ當リ平均市價ハ壹圓參拾錢内外ナリ而シテ耕作ニ從事スル農家ノ收益ハ素ヨリ歲ノ豐凶及市價ノ高低ニ準スルヲ以テ甚タ豫期シ難シト雖肥料小作料等一切ノ費用ヲ差引キタル殘額ハ我一反歩ニ對シテ三十元乃至四十元ヲ以テ普通トス而シテ此利益中ニハ自家ニ於テ耕作上ニ費シタル諸勞力ニ對スル報酬ヲ含メルナリ

第五項 模様染色及堅糸

丸蘭莖ハ從來否尙ホ殆ント清國內地用ノ敷吳産ニ宛ツルモノニシテ染色品甚ダ稀ナリ只近來米國輸出ノ目的ヲ以テ染色模樣花莖ノ製造ヲ開始シタルモ未タ模樣等ノ見ル可キモノナク亦染色モ稱導スルニ足ラサルナリ而シテ其染料、染色方法等ハ從來ノ七島蘭清國花莖ト同一ニシテ又堅絲モ苧麻黃麻等ヲ用ユルコト清國花莖ニ同シ

丸蘭ノ染色費ハ百六十匁ニ對シ凡ソ四仙ナリト云フ

參考品 第五十三見本

第六項 花莖ノ製造者、織機及工賃

蘭草ヲ耕作シタルノ農民カ其自家ニ於テ更ニ花莖ノ製織ニ從事スルヲ普通トス然レトモ今尙ホ花莖ノ製造者ハ甚ダ少數ニシテ多數ハ清國內地用敷吳産寢吳産ノ類ヲ製織ス織機ハ在來ノ清國花莖即チ七島蘭花莖ノ織機ト異ナルナク甚ダ幼稚ヲ極ムルナリ男女孰レニ限ラス二人ニテ製織シ農間餘暇アルノ時之ニ從事ス

一卷ノ花莖ヲ織ルニ凡ソ三日間ヲ要シ一職工一日ノ勞銀ハ凡ソ貳拾五仙ニ當レリ即花莖一卷ノ製織賃一元五拾仙ナリ

第七項 販路

販路ハ國內及國外ノニ二分タレ其國外ニ出ルモノニ亦ニアリ一ハ國內ニ消費セラル、數吳産ト同品ニシテ海外ニ在留セル清國人ニ需用セラル、モノ他ハ所謂輸出花筵ナリ而シテ國內ニ消費サル、モノハ概不無地ノ數吳産ニシテ其支那全國ニ於ケル九箇吳産製産額ハ確タル統計ノ據ル可キモノナキモ少クモ我壹千萬圓ニ達ス可シ然ルニ輸出花筵ニ至テハ近來漸ク寧波ニ於テ其端緒ヲ開キシニ止リ昨三十八年ニ於テ僅ニ我貳萬九千餘圓ヲ輸出シタルニ過キス而シテ其輸出國ハ米國ニシテ在上海ノ米國貿易商會主トシテ之ヲ取扱ヘリ

第八項 寧波輸出見本ノ説明

九箇見本番號

百六十匁一斤ニ付時價

第五十四

八仙

長サ三尺五六寸
價四仙内外ニ下落シタルコトアリ

第五十五

六仙

長サ三尺二三寸

第五十六

二仙半

長サ二尺七八寸

時價四拾碼一卷ニ付

九箇見本番號

七元内外

第五十七

米國ニ輸出ス

六元内外

第五十八

米國ニ輸出ス

五元九十仙

第五十九

米國ニ輸出ス三元二十仙ニ下落シタルコトアリ

四元八十仙

第六十

米國ニ輸出ス

四元八十仙

第六十一

米國ニ輸出ス

四元

第六十二

日本ニ輸出スルコトアリ

七元五十仙

第六十三

天津方面ニ輸出ス

四十一

第六十四

二元七十仙ニ下落シタルコトアリ上海及米國へ輸出ス

四元七十仙

四十二

第六十五

天津方面ニ輸出ス

五元二十仙

第六十六

米國ニ輸出ス

六元

第六十七

日本ニ輸出スルコトアリ

四元

(備考) 凡テ染菌ハ一斤ニ付四仙内外貴シ

第七章 結論

第一節 日清花苳ニ對シ米國關稅賦課振合ニ關スル疑議

清國產花苳賣買直段ノ標準ハ廣東市ニ於ケル價格ニ準據スルコト既ニ述ヘタルカ如シ然レトモ米國政府ニ於テ輸入ノ際關稅ヲ賦課スルニ當リテハ商業上ノ割引歩合輸出稅厘金稅船積人足賃ヲ控除シテ課稅スルノ習慣ナルカ故ニ日本花苳モ須ラク此實例ニ均霑ス可シトノ說アリ今試ニ之ヲ事實ニ徵

シ數字ヲ以テ表示センカ

支那花苳ノ廣東ニ於ケル直段一碼ニ付銀貳拾貳仙半トス

然ルトキハ

九〇〇

壹卷ノ代價

内、壹八

商慣習上差引ク可キ代價ノ百分ノ貳

差引八、八貳

内、參貳

輸出稅

〇八

厘金稅

壹四

船積人足賃

小計 五四

差引 八、貳八

即三、九三

米貨ニ換算シタルモノ

ニシテ一卷ノ代價米金三弗九十三仙ニ當リ即チ高率關稅ヲ賦課サル可キ支那花苳モ低率ヲ支拂フニ止ルナリ而シテ今日日本花苳モ果シテ如上ノ項目ニ相當シ之ニ均霑シ得ルノ根據アリヤ否ヤヲ考査スルニ先チ米國關稅法ニ就キテ其課稅ノ原則ヲ見ルニ

關稅ハ物品代價、紙箱、木箱、綱籠、外箱、包裝等凡テ包裝ニ關スル諸費用及其他ノ諸掛即チ商
品ヲ米國ニ向テ出荷シ得ルニ至ル迄テノ一切ニ對シテ課稅ス但シ買入手數料ハ除外スルモノトス
而シテ米國ニ向テ出荷シ得ルノ荷造成リタル後ニ支拂ヒタルモノハ之ヲ合算セス
ト規定セリ即チ茲ニ本規定ト清國花苳ニ對スル前記ノ振合ト比較スルトキハ先ツ日本花苳ノ利益
ノ爲メ攻究ヲ加フ可キ問題ハ左ノ

第一 花苳検査所ノ検査手數料

第二 神戸港ニ於ケル本船積込料

第三 神戸仲次商人ノ手數料

ニアリトス蓋シ第一ハ是レ清國花苳ニ於ケル輸出稅厘金稅ニ相似タルモノナルカ故ニ當然不課稅ノ
項目タル可シ而シテ第二ノ積込料ハ之ヲ調査スルニ既ニ現在ニ於テ不課稅ノ項目トシ米國稅關ハ之
ヲ除外セルヲ以テ茲ニ攻究ノ要ナシ第三ノ買入手數料ハ之ヲ現在行ハル、實例ニ徵スルニ神戸居留
ノ外商カ米國輸入商ニ對シテ徵收スルノ買入手數料ハ之ヲ包含セスト雖神戸ニ於ケル仲次日本商人
ノ手數料ハ課稅價格中ニ算入セリ今之ニ就テ考慮スルニ日本商人ノ手數料即チ收得ハ神戸ニ於ケル
花苳取引ノ慣習トシテ手數料ナル名義ノ下ニ收入サル、ニ非ラス又假ニ之ヲ手數料トスルモ所謂荷
造以前ノ諸費ニ屬ス可キヲ以テ之ヲ不課稅項目トシテ論爭スルコト能ハサル可シ故ニ要スルニ本項

ニ對シ攻究ヲ加フ可キハ

花苳検査所検査手數料

ノ除外問題ニシテ蓋シ是レ不課稅項目ニ屬ス可キヲ信スルナリ

第二節 清國花苳ノ將來

清國花苳ノ前途ハ一面甚タ憂フ可キモノアリ蓋シ彼等ハ文明ノ潮流ニ壓倒セラレ所謂優勝劣敗ノ理
ニ於テ自然ノ衰頹ヲ來セルナリ今清國花苳ノ得失ニ就キ稽フルニ

第一 原料耕作方法甚タ幼稚ナリト雖地價地稅共ニ尙ホ低廉ニシテ農民ノ生活程度モ亦極メテ低
シ故ニ彼等ハ近キ將來ニ於テ原料ノ高價ヲ憂ヘサル可シ

第二 織機ノ粗笨ニシテ精巧ナル品類ヲ製出シ能ハサルハ看過ス可カラサルノ缺點ナリ勞銀低シ
ト雖織機ノ完全セサルカ爲ニ織工ノ多キヲ要シ却テ製産費低廉ナラス

第三 海外需用地ノ嗜好ヲ洞察シ之ニ應スルノ品類ヲ製出セントスルニ非ラスシテ却テ自己本位
タリ即チ清國的思想ヲ以テ製出シタルモノヲ海外顧客ニ消費セシメントスルナリ

第四 海外直輸ノ業ヲ營ムモノ無ク其輸出ハ悉ク在留外人ノ掌裡ニアリ
之ヲ我日本ノ花苳業ニ比較スルニ第一ニ於ケル清國人ノ利便ハ我當業者ニ比シテ遙ニ優レリ然レト

モ第二、第三、第四ノ要素ニ至テハ素ヨリ我ニ於テモ甚タ完全セスト雖尙ホ之ヲ清國ニ比スレハ大ニ勝レリ蓋シ清國人ト雖具眼ノ士無キニ非ス國際貿易上ノ大勢ヲ達觀スルト共ニ清國花筵ノ製造上及商取引上一大刷新ヲ斷行シテ刻下ノ衰勢ヲ挽回シ掉尾ノ成功ヲ期セントスル者アリト雖斯業ニ從事スル農民及職工等ハ單ニ忍耐勤勉ノ民タルニ過キスシテ眼ニ一丁字ヲ解セサル無智ノ徒ナリ故ニ耕作上又ハ其製造上ニ對シ百方改良進歩ヲ縷説スルモ之ヲ用キサルニ非ラスシテ理解シ能ハサルナリ況ンヤ頑迷固陋舊套ノ墨守ヲ憚フハ是レ清國人ノ通弊ナルニ於テナヤ既ニ三十八年一月米國紐育ノ花筵輸入商人相連合シテ清國花筵ノ粗製ヲ詰責シ且ツ之ヲ脅迫シテ曰ク若シ清國花筵ノ品質ヲ改善スル所無クンハ自今斷然清國花筵ノ輸入ヲ中止シ之ニ代ユルニ全然日本花筵ヲ輸入ス可シト告知セリ然ルニ之ヲ聞キタル廣東内地ノ營業者ハ憤然トシテ此通告ヲ排斥シ且ツ同盟シテ自今米國向花筵ノ製造ヲ拒絕スルヲ約シ結ンテ釋ケサルコト半歲ノ久シキニ及ヘリ惟フニ彼等カ相團結シテ自己ノ利益ヲ擁護シ以テ外人ニ拮抗スルノ勇氣ハ大ニ學ブ可キノ活動ナルモ其事理ノ根底ニ於テ讓リタルモ其悟ヲサルコト實ニ斯ノ如シ是レ清國花筵ノ將來ヲトシ甚タ悲觀スル所以ナリ若シ清國營業者ニ於テ廣ク國際貿易ノ大勢ニ鑑ミ大ニ反省スルト共ニ進ンテ改善ノ方策ヲ講スルニ非レハ清國有數ノ輸出品タル其花筵ハ刻下ノ頹勢亦終ニ恢復シ能ハサルニ至ル可シ

然レトモ直ニ清國花筵ヲ與シ易シトシ其衰運再ヒ挽回シ難シト斷定スルハ大早計ナリ之ヲトシテ悲

觀スル所以ハ其改進ヲ怠ルノ點ニアリ故ニ一朝若シ彼等ニシテ昨非ヲ自覺シ一轉改良ノ途ニ就クニ至ラハ既往幾數十年ノ經歷ト聲望ハ相輔ケテ益々清國花筵ノ頭角ヲ發揚スルト共ニ日本花筵ニ對スル唯一ノ勁敵タルニ至ル可シ是レ本邦營業者ノ最モ畏レテ戒ム可キ事ニ屬ス加フルニ茲ニ吾人ノ最モ寒心ス可キハ夫ノ清國ニ產出スル丸蘭ト其花筵ナリ上來述ヘ來リタル所謂清國花筵ナルモノハ七島蘭製花筵ヲ指スモノニシテ其改進スル所アラハ尙ホ且ツ本邦花筵ノ運命ヲ左右スルノ虞アリ況ンヤ若シ清國丸蘭筵ニシテ輸出ノ計劃成リ輸出ノ方針ヲ以テ製織ニ從事シ本邦花筵ト角逐シテ輸贏ヲ海外市場ニ爭ハントスルニ至ラハ蓋シ我花筵ノ運命ハ智者ヲ俟タスシテ知ル可キノミ假令幸ニシテ壓倒サル、ニ至ラサルモ一大打擊ヲ受ケテ發展ノ機運ヲ阻害セラル、ノミナラス從來獨占ノ地歩ヲ動搖サル、ヤ必セリ本邦花筵業者タルモノ正ニ此間深慮運策大ニ爲ス所ナカル可カラズ

第三節 我營業者ノ活動策

清國花筵ノ現態斯ノ如クニシテ最モ危機ニ臨メルナリ惟フニ清國人ト雖之ヲ看過放任スルモノニ非ス必スヤ覺醒一番大ニ奮起シテ刷新ノ途ヲ講シ且ツ其丸蘭ヲ利用シテ製筵シ以テ日本花筵ニ當ルノ策ヲ建ツ可キナリ則チ之ニ對シテ否之ニ先チテ吾人ノ執ル可キ方策果シテ如何是レ須ラク攻究ヲ要ス可キ問題ナリ蓋シ其方案タルヤ之ヲ討査スルニ當リテハ幾多ノ岐路細論ニ亘ル可キモ要スルニ

- 一、清國產原料ヲ日本ニ輸入シテ製蕈スルカ
- 二、清國ニ資本又ハ勤勞ヲ投下シ邦人自カラ製蕈ノ業ニ從事スルカ
- 三、日本及清國ノ花蕈商人相提携シテ輸出ヲ經營スルカ
- 四、原料製織及商取引共ニ全然清國花蕈ト獨立シテ日本花蕈ニ關スル諸般ノ設備及改良ヲ斷行シテ以テ清國花蕈ニ拮抗凌駕スルノ策ヲ執ルカ

第一案

其何レノ場合タルニ拘ラス之ヲ決行シテ可ナリ蓋シ我丸蘭ノ製產高ト價格ハ歲毎ニ異リ一低一高殆ント圖リ知ル可カラス殊ニ年ヲ逐フテ高價ニ趨ルノ傾向アリ從テ我花蕈ノ販路ニシテ米國以外ニ擴張セラル、カ或ハ米國現關稅率ノ低減サル、ニ非レハ我花蕈ノ輸出ハ自今著シキ膨脹ヲ告グルニ望ナキノミナラス或ハ減少スルノ恐アリ故ニ比較的ニ廉價ナル清國產丸蘭若シクハ七島蘭ヲ輸入シテ我用ニ供スルニ至ラハ我花蕈製織上ノ技術ハ巧ミニ之ヲ製織シテ日本花蕈タラシムルコトヲ得可ク又我蘭草價格ノ暴騰ヲ抑壓シ延テ其暴落ヲ防ク可シ如何トナレハ由來蘭草相場ノ暴落ハ前年ノ好況ヲ見テ猥リニ需用ヲ超テ栽培段別ヲ激増シ終ニ供給過剩ヲ來シ價格暴落シテ農民ハ意外ノ損失ヲ蒙シ負債加ハリ又起ツ能ハサルニ至ル者ヲ生スルコトアリ故ニ清

國蘭草ノ輸入開始ハ我蘭草栽培者ヲ刺戟シテ耕作改良ノ緒ニ就カシメ又價格ヲ平均シテ變動ヲ防キ延テ日本花蕈ノ製織上原料供給ノ安全ヲ與フルト共ニ亦從來囁レル蘭草耕作農民ノ投機心ヲ抑止スルノ利アリ

第二案

我當業者又ハ資本家ノ斷行ヲ望ムコト切ナリ蓋シ清國職工ニ我製蕈器械ノ應用ヲ習得セシメ訓練宜シキヲ得ハ彼等ハ優ニ我花蕈ニ匹敵スル製品ヲ擧ケ得ルヤ必セリ是レ或ハ自繩自縛ニシテ却テ清國花蕈ノ盛ヲ致シ延テ我花蕈ニ禍スルニ至ル可シト憂フル者アル可キモ一タヒ先鞭ヲ着ケテ邦人ノ經營着々其緒ニ就カハ彼等ハ只風ヲ望ンテ迎合附隨シ終ニ清國花蕈ノ命運ハ吾人ノ掌裡ニ左右シ得ルニ至ル可シ然ルニ若シ邦人ニシテ手下サ、ルトキハ或ハ歐米ノ人之ニ當リ或ハ清國人自カラ此方策ヲ斷行スルノ恐レナキニ非ス既ニ日本ニ精良ナル製蕈機械アリ清國ニ低廉ナル蘭草就中丸蘭ノ生産スルアリ殊ニ其勞銀ハ亦低廉ナリ此事實ニシテ判明ナル以上ハ清國ニ於テ我織機ヲ用キテ製蕈スルニ至ル可キハ最モ觀易キノ理ナリ只其未タ行ハレサル所以ハ理ニ於テ然ルモ未タ其動機ノ起ラサルニ因ルナリ否動機已ニ伏在スルモ其發動ノ時機ニ達セサルナリ他日一タヒ其機會ノ動クアラハ忽ニシテ我織機ハ清國ニ入ル可シ是ニ先ンシテ邦人ノ清國ニ入り或ハ我資本ヲ用キ或ハ彼ヲシテ資本ヲ醸出セシメ其經營ヲ我一手ニ掌握シテ以テ彼ノ

原料勞力若クハ資本ヲ併セ利用スルト共ニ我花莖自衛ノ策ヲ樹ツ可キナリ夫ノ下ノ關係約ニ依テ收メ得タル我利權ノ如キ正ニ此秋ニ於テ利用セサル可カラス蓋シ邦人ニシテ清國ニ入り自カヲ或ハ其名義ノ下ニ花莖ノ製織ニ從事センカ之ヲ清人ノ經營スル者ニ比シテ幾多ノ利便多シ即チ清國ニ於テ行ハル、諸稅ノ徵稅ヲ免除セラル、等はレナリ然レトモ此利權ハ亦歐米列強國民ノ等シク均霑スル所ナルヲ以テ邦人タル者ハ決シテ閑然自安ス可ラス是レ最モ注視ヲ怠ル可ラサル要事ニシテ特ニ邦人ノ驟然先入ヲ勸告スル所以ナリ若シ夫レ機運一タヒ開展シテ他ニ先鞭ヲ輸スルノ日アラハ後悔臍ヲ噬ムモ亦及ハス我花莖ノ前途言フニ忍ヒサルモノアルニ至ル可シ

參照 下ノ關係約第六章

第三

日本國臣民カ清國內地ニ於テ貨品及生産物ヲ購買シ又其輸入シタル商品ヲ清國內地ヘ運送スルニハ右購買品又ハ運送品ヲ倉入スル爲メ何等ノ稅金取立金ヲモ納ムルコトナク一時倉庫ヲ借入ル、ノ權利ヲ有ス可シ

第四

日本臣民ハ清國各市場開港場ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ從事スルコトヲ得ヘシ又所

定ノ輸入稅ヲ拂フノミニテ自由ニ各種ノ機械類ヲ清國ヘ輸入スルコトヲ得可シ

清國ニ於ケル日本臣民ノ製造ニ係ル一切ノ貨品ハ各種ノ内國運送内地稅賦課金取立金ニ關シ又清國內地ニ於ケル倉入シタル商品ト同一ノ取扱ヲ受ケ且同一ノ特典免除ヲ享有ス可キモノトス

第三案

邦人ノ清國ニ入りテ製莖ニ從事スルハ蓋シ或ハ我當業者ノ現態ニ於テ寧ロ至難ノ事タルカ如シ果シテ其根底ニ侵入シ之ヲ掌握スルノ勇舉ハ行フニ難シトセンカ少クモ日本及清國ノ花莖商人相提携シテ以テ海外需用地即チ米國ノ輸入商ニ對シ其翻弄ニ拮抗スルノ方策ヲ旋ラス可キナリ人或ハ曰ハシ清國花莖ハ我花莖ノ競争品タリ而シテ清人殊ニ廣東商人ハ世界ニ冠タル商業的技術ヲ有スル人ナリ加フルニ本邦花莖商人ハ互ニ相反目シテ之ヲ國內ニ一致セシムルニ難シ況ンヤ之ヲ對外商事ニ團結セシメントスルカ如キ無謀ノ甚シキモノナリ即チ日清當業者人ヲ相結ハントスルハ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルモノニ似タリト思フニ是レ今日ノ狀態ナリ此現態ナルカ故ニ益々吾人ハ我當業者ニ本案ヲ勸告セントスルナリ蓋シ近時清國ニ排外ノ謬說起リ熾ンニ自主自營ヲ唱道シテ止マスト雖之ヲ唱フル者モ其心裡ニ於テハ清人ノ科學的素養ヲ缺キ製造技術ノ拙劣ナルヲ知レルト共ニ獨力獨營ノ不可能ナルヲ自覺シ之ヲ揚言スルモ先ツ歐米諸國ニ對抗シテ

其壓迫ヲ回避スルヲ以テ主眼トシ暫ク之ヲ日本ニ適用セス先ツ日本人ヲ利用シテ其短ヲ補ハシムルノ途ヲ講セルナリ是レ甚タ露骨ノ論評ナル可キモ之ヲ日本崇拜ノ氣運ト稱スルハ自負ニ過キタルモノナリ蓋シ此時ニ當リ吾人ハ彼等ノ意志若シクハ目的ノ果シテ那邊ニ存在スルカヲ攻究スルノ要ナシ宜シク彼等ノ欲スル所ニ嚮フ可キナリ之ヲ廣東ノ花筵商人ニ聞クニ彼等清商ハ年來行ハル、居留外商ノ暴慢ヲ憤リ跋扈ヲ慷慨シ殊ニ昨年紐育ニ於ケル花筵輸入米商ノ與ヘタル脅迫ヲ仇視スルコト甚タ深キカ故ニ若シ彼等ニシテ日本ノ當業者ト交通提携セハ將來ニ於テ再ヒ這般ノ屈辱ヲ蒙ルコトナク延テ日清兩國花筵ノ爲ニ利益ナリト確信セルナリ惟フニ是レ亦日本花筵ノ利益ニシテ近時彼等カ此希望ヲ有スルハ正ニ我當業者ノ乘ス可キ好機會ナリト信スルナリ而シテ幸ニ日清ノ當業者相交リ相知リ又相結フノ日ニ至ラハ我當業者モ内争ノ不利ヲ悟ルト共ニ對外ノ商事ニ於ケル團結ノ効果ヲ感シ以テ終ニ我花筵業上一新生面ヲ拓クニ至ル可シ

第四案

是レ亦タ良案タルヲ失ハサル可シ蓋シ此方策ハ久シク吾人ノ唱導スル所ニシテ第一、第二及ヒ第三案ノ並ヒ行ハル、場合ニ至ルモ尙ホ須ラク我當業者ハ此決心ヲ確保シ且ツ實行スルノ勇斷ナカル可カラス然ルニ之ヲ今日ノ我斯業界ニ就テ見ルニ不幸ニシテ多クノ望ヲ囑シ難キモノナ

ルカ如シ願ルニ近時米國ニ於ケル我花筵ノ商況ハ良好ヲ極メ其輸入額ハ大ニ清國花筵ヲ凌駕スルニ至リ延テ日本ニ於ケル斯業ハ頗ル盛運ノ秋ニ屬ス是レ米國ニ於テ本邦花筵ノ需用者増加シタルト又米國ノ花筵商人ハ成ル可ク清國産ノ輸入ヲ避ケテ我花筵ニ向テ注文ヲ發スルニ基因シ而シテ其由テ來ル所以ハ清國花筵ニ検査規則ナク近來甚タ其製品上ニ對シ何等ノ信用ヲ措キ難キニ反シ我ニ於ケル花筵検査所ノ國立ハ米國當業者及消費者ノ我花筵ニ對スル信用ヲ加ヘシムルニ至リ且國運興隆ノ聲譽ハ我製品ニ向テ好尚ヲ深カラシムルモノアリ相綜合シテ我花筵ハ實ニ刻下ノ好況ヲ致セリ然ルニ我當業者ハ此稀有ナル好機ヲ利用シテ好況持續ノ途ヲ立ツルニ至ラス又發展改良ノ積極的方策ヲ執リ得サルノミナラス其實製造者ハ製織上收支ノ相償ハサルヲ嘆シ當業商人ハ利潤ノ薄ク否時ニ或ハ損失ヲ免レスト叫ビ以テ賣買上ノ困難ヲ訴フルモノ是レ果シテ何ノ故ソヤ一見人ヲシテ怪訝ニ堪ヘサラシムルナリ我當業者タルモノ深ク情弊ノ伏在スル所ヲ窮メ勇斷刷新以テ大勢ニ則リ斯業前途ノ爲メ進歩的活動ヲ執ラサル可カラス敢行進ンテ嶄然國際市場ニ雄飛シ以テ日露戰役後ニ於ケル我大經營ニ貢獻スル所ナカル可カラス夫ノ所謂原料耕作ノ改良ナルモノ甚タ可ナリ織機ノ改善行フ可シ製織上ノ進歩ヲ講スル可ナリ取引方法ノ刷新急要ナリ外國市場ノ視察可ナリ新販路ノ開拓謀ル可シ直輸出ノ計劃必要ニシテ又金融機關ノ設備運輸方法ノ改善樞要ナル可シ然レトモ徒ラニ言ヲ大ニシテ事ノ舉ラサルハ無爲ニ劣レ

リ須ラク人ニ依ラス又猥リニ官ニ頼マス自主自營ノ大決心ヲ以テ實行ス可シ百善ヲ言フテ一事
 ノ成ル無キヨリモ不言ニシテ一小事ノ成ルヲ尊フ今日ノ事只不言實行ノ四文字アルノミ
 要スルニ我營業者ハ清國花筵即チ從來ノ七島蘭筵ノミヲ以テ我花筵ノ競争品ト思フ可カラス九箇ヲ
 以テ日本獨有ノ物産ナリト思フ可カラス清國ニ其生産アリ米國ニ其移植ノ成功セルアリ此大勢ニ據
 テ推定セハ近キ將來ニ於テ我花筵界ニ一大變調ヲ生スルノ恐レアリ此秋ニ當リ我營業者タルモノ正
 ニ眼孔ヲ大ニシテ國際商工業上ノ趨勢ヲ達觀シ又頭腦ヲ冷靜ニシテ胸宇ヲ濶キ互ニ相謀リテ以テ其
 自衛ト進取ノ方策ヲ定メ着々實踐力行ス可シ輒今時勢ノ推移ハ我營業者ノ偷安姑息ヲ許サ、ル所
 ナリ（見本品ハ商品陳列館ニ保存ス）

南清貿易調査復命書終

17/3/41

明治四十年二月十五日印刷
 同 四十年二月廿八日發行

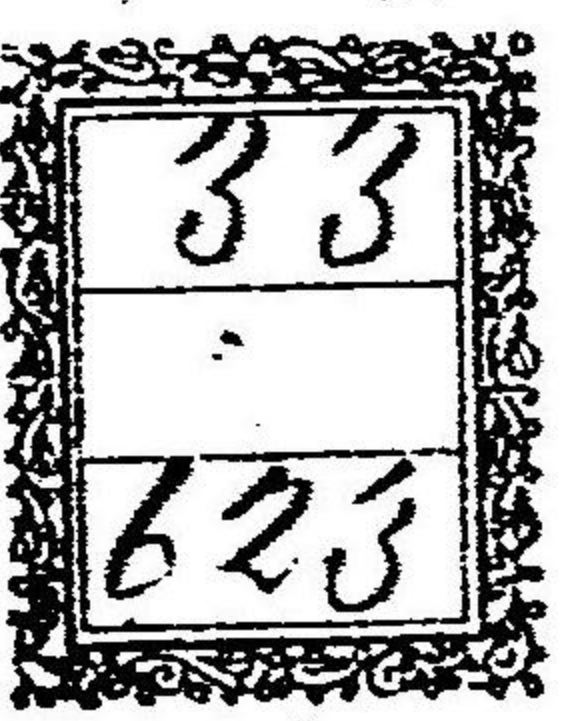
農商務省商工局

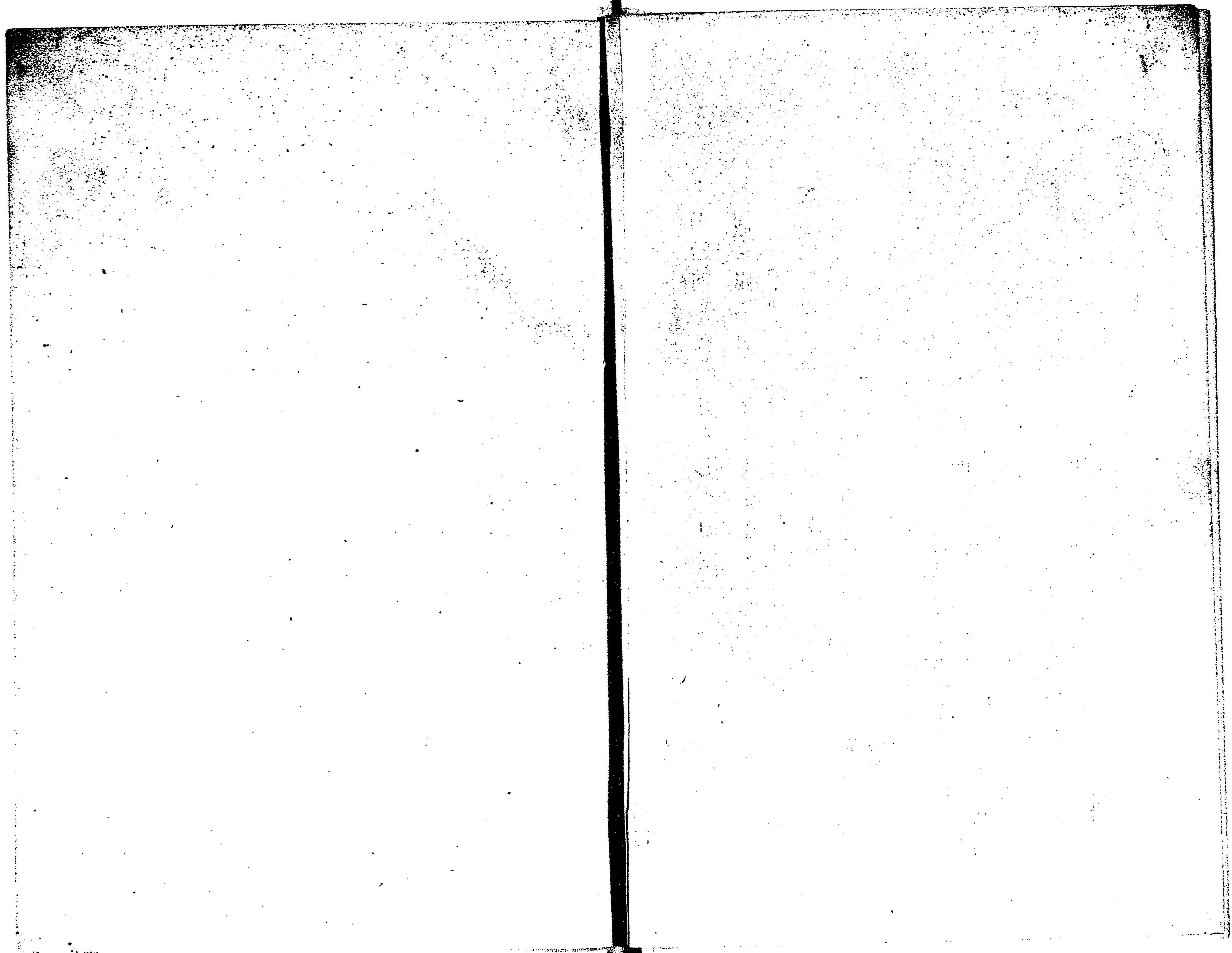
東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷者 松 本 魁

東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷所 會社東京國文社





33
623

23

33

623

044328-000-3

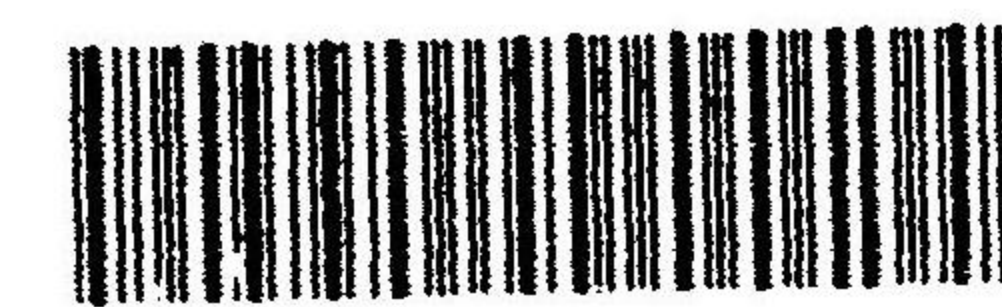
33-623

南清貿易調查復命書

農商務省商工局

M40

BDN-0399



33

623

Handwritten text on a vertical strip, possibly a title or index entry, including characters such as 卷 (Volume) and 目 (Table of Contents).

